

マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
ご使用前に必ずお読みください。

セットアップガイド

- パソコンの準備
- Windowsのセットアップ
- 電源の切りかた
- Q&A集（電源が入らないとき）
- リカバリー（再セットアップ）
- 廃棄／譲渡
など

取扱説明書

- 電源の入れかた
- 各部の名前
- メモリの取り付け／取りはずし
- バッテリーパックの交換
- システム環境の変更とは
など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリーで使う方法
- システム環境の変更
- パソコンの動作がおかしいとき／Q&A集
など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
必ずお読みください。

参照 ▶ 「はじめに- 8 リリース情報について」

もくじ

マニュアルの使いかた	1
もくじ	2
はじめに	6

1章 使いはじめる前に..... 13

1 前のパソコンのデータを移行する -PC引越ナビ-	14
----------------------------------	----

2章 パソコンの基本操作を覚えよう..... 19

1 電源を入れるとき	20
2 パソコンの使用を中断する	22
1 スリープ	23
2 休止状態	23
3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する.....	24
3 タッチパッドとマウス	26
1 タッチパッドで操作する	26
2 タッチパッドの使用環境を設定する	27
3 マウスの使いかた	29
4 キーボード	32
1 キーボード図.....	32
2 キーボードの文字キーの使いかた.....	34
5 ハードディスクドライブ.....	38
6 CD/DVD/ブルーレイディスクを使う -ドライブ-	39
1 使える記録メディアを確認しよう.....	40
2 CD/DVD/BDを使うとき (セット).....	43
3 CD/DVD/BDを使い終わったとき (取り出し).....	46
4 DVD-RAMをフォーマットする	47

7	画面を見やすく調整する –ディスプレイ–	49
	1 画面の明るさを調整する	49
8	サウンド	50
	1 スピーカーの音量を調整する	50
9	いろいろなメディアカードを使う –ブリッジメディアスロット– ...	52
	1 メディアカードを使う前に	53
	2 メディアカードのセットと取り出し	55
10	Webカメラを使う	58
	1 Webカメラのアプリケーションについて	59
	2 顔照合機能	61

3章 ネットワークの世界へ63

1	ネットワークで広がる世界	64
	1 LAN接続はこんなに便利	64
	2 ブロードバンドで接続する	65
	3 ワイヤレス（無線）LANを使う	67

4章 周辺機器を使って機能を広げよう71

1	周辺機器を使う前に	72
2	USB対応機器を使う	73
3	eSATA対応機器を使う	76
4	i.LINK（IEEE1394）対応機器を使う	78
5	マイクロホンやヘッドホンを使う	80
	1 マイクロホンを使う	80
	2 ヘッドホンを使う	82
6	光デジタル対応機器の接続	83
7	ExpressCardを使う	85
	1 ExpressCardを使う前に	85
	2 ExpressCardを使う	85

8	テレビの接続	88
	1 パソコンに接続する	89
	2 表示を切り替える	90
	3 レグザリンクを使う	93
	4 パソコンから取りはずす	95
9	外部ディスプレイの接続	96

5章 バッテリー駆動で使う 101

1	バッテリーについて	102
	1 バッテリー充電量を確認する	102
	2 バッテリーを充電する	104
2	省電力の設定をする	107
	1 電源オプション	107

6章 システム環境の変更 109

1	東芝HWセットアップ	110
2	パスワードセキュリティ	111
	1 ユーザーパスワード	112
	2 スーパーバイザーパスワード	114
	3 パスワードの入力	115
	4 HDDパスワード	115
3	指紋認証を使う	121
	1 指紋認証とは	121
	2 Windowsログオンパスワードを設定する	121
	3 指紋を登録する	122
	4 指紋認証を行う	128

7章 パソコンの動作がおかしいときは 131

1	トラブルを解消するまでの流れ	132
1	トラブルの原因をつき止めよう.....	132
2	トラブル対処法.....	133
2	Q&A集	134
1	画面／表示.....	135
2	キーボード.....	136
3	タッチパッド／マウス.....	137
4	指紋認証.....	139
5	その他.....	140

付録..... 141

1	ご使用にあたってのお願い	142
2	記録メディアについて	157
1	使えるCDを確認しよう.....	157
2	使えるDVDを確認しよう.....	157
3	使えるブルーレイディスクを確認しよう.....	159
4	メディアカードを使う前に.....	160
5	記録メディアの廃棄・譲渡について.....	162
3	お客様登録の手続き	163
1	東芝ID (TID) お客様登録のおすすめ.....	163
4	技術基準適合について	165
5	各インターフェースの仕様	168
6	無線LANについて	172
7	ホームネットワークを楽しもう	185
8	OSの切替えについて	191
1	64ビット版を使用する場合.....	192
2	32ビット版を使用する場合.....	193
3	OSを切り替える場合の操作と注意事項.....	193
4	Windowsの確認方法.....	195

はじめに








本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。

必ずお読みになり、正しくお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っているると便利な内容を示します。
 役立つ操作集	知っているると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「 」 ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『 』、〈 〉

*1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

*3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

WindowsまたはWindows 7

特に説明がない場合は、Windows® 7 Home Premium を示します。

ドライブ

ブルーレイディスクドライブを示します。

参照▶ 詳細について「2章 6 CD/DVD/ブルーレイディスクを使う」

BD

ブルーレイディスクを示します。

Office搭載モデル

Microsoft® Office Personal 2007をプレインストールしているモデルを示します。

モデルによっては、Microsoft® Office PowerPoint® 2007もプレインストールしています。

GXシリーズ

dynabook Qosmioシリーズで、モデル名が「GX」で始まるモデルを示します。

GXWシリーズ

dynabook Qosmioシリーズで、モデル名が「GXW」で始まるモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、別紙の『dynabook * * * *（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。



3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「* * * *モデルの場合」や「* * * *シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや付属のCD/DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。画面右上の「表示方法」が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。

参照▶ コントロールパネルの表示『Windowsヘルプとサポート』

- 本書は、語尾をのぼすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み換えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Live、Aero、Excel、MSN、Outlook、PowerPoint、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテル Core、Centrinoは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- MagicGate、メモリースティック、メモリースティックロゴ、メモリースティック デュオ、メモリースティックPRO、メモリースティックPRO デュオは、ソニー株式会社の商標です。
- SDロゴは商標です。()
- SDHCロゴは商標です。()
- xD-ピクチャーカード™は、富士写真フイルム株式会社の商標です。
- i.LINK、i.LINKロゴは商標です。
- HDMI およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC. の登録商標または商標です。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの登録商標です。
- MaxxAudio®およびMaxxAudioロゴはWaves Audio Ltd.の登録商標です。
- ConfigFreeは、株式会社東芝の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Corel、Corelロゴ、Ulead、Uleadロゴ、DVD MovieWriter、およびWinDVDは、カナダ、米国および／またはその他の国におけるCorel Corporationsおよび／またはその関連会社の商標または登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- CyberLink、SoftDMAは、CyberLink Corp.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 インテル Centrino® 2 プロセッサ・テクノロジーについて

次の3つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino 2 プロセッサ・テクノロジー搭載と呼びます。

- インテル® Core™ 2 Duo プロセッサ
- モバイル インテル® GM45 Expressチップセット
- インテル® WiFi Link 5100AGN

6 プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト (たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高1,000メートル (3,280フィート) 以上をお考えください。
- 目安として、気温5~30℃ (高所の場合25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するように、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■ 64ビットプロセッサに関する注意

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS (オペレーティングシステム) がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバーがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバーおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。

プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。


このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

7 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

8 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

9 お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD/DVDからインストールしたシステム (OS)、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは『セットアップガイド』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD/DVDからインストールしたシステム (OS)、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種 (型番) を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書 (お客様自身を確認できる物) の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- 指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
- 指紋認証機能は、データやハードウェアの完全な保護を保証しておりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルおよびファイアウォール規則などは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新のものにアップデートする必要があります。最新版へのアップデートは、ご使用開始から90日間に限り無料で行うことができます。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有償の正規サービスへ登録するか、市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『エンドユーザー使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。弊社ホームページで登録できます。

参照▶ 詳細について「付録 **3** お客様登録の手続き」

10 【ユーザー アカウント制御】 画面について

操作の途中で「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

1 章

■ 使いはじめる前に

前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

- 1 前のパソコンのデータを移行する
-PC引越ナビ- 14

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。

「PC引越ナビ」は、データや設定を1つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。事前に次の点を確認しておくことで、よりスムーズに操作ができます。

ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「本製品」として説明します。

パソコンの仕様を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

●システム*1

Windows XP／Windows Vista／Windows 7

- *1 マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。
システムの正式名称は次のとおりです。

Windows XP.....Microsoft® Windows® XP operating system 日本語版の全エディション

Windows Vista.....Microsoft® Windows Vista® の全エディション

Windows 7.....Microsoft® Windows® 7の全エディション

お願い

前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、「付録 **1-1** 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

■使用できる環境を確認する

設定・データの移行をするには、次の方法があります。

- USBフラッシュメモリを使用する
- USBフラッシュメモリとネットワーク（有線LAN）を使用する
- USBフラッシュメモリとクロスケーブル（有線LAN）を使用する

前のパソコンと、本製品の仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

USBフラッシュメモリのみで移行する場合は、512MB以上の容量が必要です。

USBフラッシュメモリの代わりに、メディアカードを使用することもできます。

本製品で利用できるメディアカードについては、「2章 **9** いろいろなメディアカードを使う」で確認してください。

前のパソコンでどの方法が使用できるかを確認し、USBフラッシュメモリやネットワーク用のケーブルが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なUSBフラッシュメモリは、あらかじめフォーマットしてください。

移行するファイルや設定内容に比べて、USBフラッシュメモリの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のUSBフラッシュメモリを移行用に使用することをおすすめします。

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」を起動したときのユーザーのデータを移行できます。

- Internet Explorerの設定*¹
- Windows Live メール (Windows メール、Outlook Express) の設定*^{2*4}
- Microsoft Outlookの設定*^{3*4}
- [ドキュメント] (Windows Vista以外では [マイドキュメント]) フォルダーに保存されているファイル
- デスクトップ上のファイル
- 任意のフォルダーに含まれるファイル

*1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1以上

*2 本製品で使用する場合は、「Windows Live メール」をMicrosoftのホームページからダウンロードしてください。

ダウンロードに関しては、マイクロソフト株式会社のホームページ (<http://www.microsoft.com/ja/jp/default.aspx>) を参照してください。

移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express (バージョンが6 SP1以上)」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のものになります。

*3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のものになります。

「Microsoft Outlook」はOffice搭載モデルにのみ付属およびインストールされています。Officeが搭載されていないモデルの場合、以前にご使用されていたパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータを本製品に移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用前に市販の「Microsoft Outlook」を本製品にインストールする必要があります。

移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。

*4 メールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ」はパソコンにデータを保存します。

「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート(取り込み)を行います。

メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。

詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。

メモ

- 移行できる設定やデータについて、詳しくは、「PC引越ナビ」のヘルプで確認してください。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-1 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

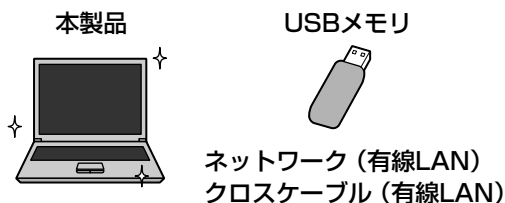
1 操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで詳細の操作は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
本製品と、前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

1章
使いはじめる前に

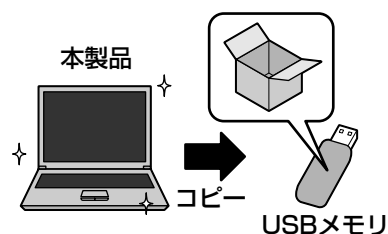
移行方法を決める

いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと本製品の仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。



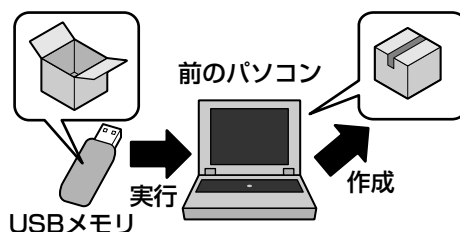
「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
USBフラッシュメモリにコピーしてください。



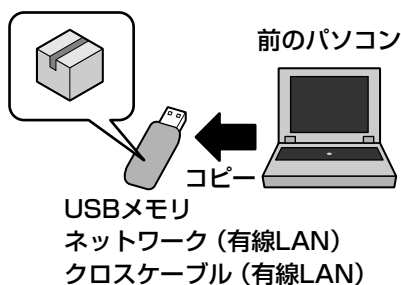
「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。



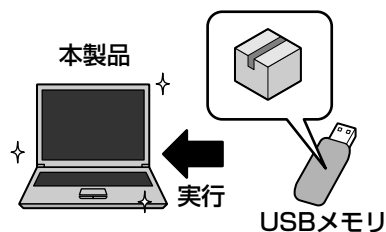
「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。



「こん包ファイル」を開こんする


コピーした「こん包ファイル」を本製品で開き、コピーします。



2 起動方法

1 デスクトップ上の [PC引越ナビ] () をダブルクリックする

「PC引越ナビ」が起動します。

[スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [PC引越ナビ] をクリックして起動することもできます。

2 画面下の ボタンをクリックし、注意制限事項を確認する

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。

「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。

目次で [注意制限事項] をクリックし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

3 [同意する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。

注意事項が表示されます。内容を確認し、[次へ] ボタンをクリックしてください。

引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら、操作してください。

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1	電源を入れるとき	20
2	パソコンの使用を中断する	22
3	タッチパッドとマウス	26
4	キーボード	32
5	ハードディスクドライブ	38
6	CD/DVD/ブルーレイディスクを使う ードライバー	39
7	画面を見やすく調整する ーディスプレイ	49
8	サウンド	50
9	いろいろなメディアカードを使う ーブリッジメディアスロット	52
10	Webカメラを使う	58

1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■ パスワードを設定している場合

● ユーザーパスワードを設定している場合

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

パスワードを入力して下さい。

設定したユーザーパスワードまたはスーパーバイザーパスワードを入力し、**ENTER** キーを押してください。



メモ

- 「指紋認証ユーティリティ」で起動認証機能を有効にし、指紋を登録すると、パスワードを設定している場合に表示される「パスワードを入力して下さい。」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、起動認証機能によってパスワードの認証が行われます。認証を5回失敗するか、一定時間が経過する、または **BACKSPACE** キーを押すと、「パスワードを入力して下さい。」が表示されます。

指紋認証について詳しくは、「6章 **3** 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

参照 ▶ パスワードについて「6章 **2** パスワードセキュリティ」

● HDDパスワードを設定している場合

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

Enter HDD1 Password

設定したHDDパスワードを入力し、**ENTER** キーを押してください。



メモ

- パスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。

ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

参照 ▶ パスワードについて「6章 **2** パスワードセキュリティ」

■ メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『セットアップガイド』の「Q&A集」をご覧ください。

2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

■ 一時的に変更する

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 電源スイッチを押し、[Qosmio] 画面が表示されている間に **F12** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。

2 起動したいドライブを **↓** または **↑** キーで選択し、 **ENTER** キーを押す 一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

■ あらかじめ設定しておく

「東芝HWセットアップ」の [OSの起動] タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 ▶ 設定の変更「6章 1 東芝HWセットアップ」

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スリープまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

警告

● 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る

パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。他の機器に影響を与えることがあります。

- ・無線機能は、ワイヤレスコミュニケーションスイッチで無効にすることができます。ワイヤレスコミュニケーションスイッチで無線機能を無効に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
- ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に動作することがあるため、飛行を妨げたり、他のシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
- ・電源を切った状態でもパソコンが自動的に動作するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効に（解除）してください。

お願い 操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

中断したときは

- スリープ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・スリープ中にメモリを取り付け／取りはずしすること
 - ・スリープ中にバッテリーをはずすこと
 また、スリープ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押しっていったん電源を切ったあと、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープ中や休止状態では、バッテリーやメモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

1 スリープ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スリープはすばやく状態が再現されますが、バッテリーを消耗します。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープではそれまでの作業内容は消失します。ACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

スリープの実行方法は『セットアップガイド』を確認してください。





- **FN** + **F3** キーを押して、スリープを実行することもできます。

2 休止状態


パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

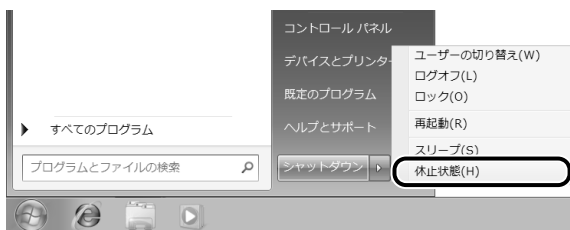
1 休止状態の実行方法

- 1 [スタート] ボタン () をクリックし①、  にポインターを合わせる②



2 表示されたメニューから【休止状態】をクリックする

メニューが表示されない場合は、 をクリックしてください。



休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ


- **FN** + **F4** キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、パソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じるときに、電源を切る（電源オフ）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ システムとセキュリティ] をクリックする

3 [ 電源ボタンの動作の変更] をクリックする

4 [電源ボタンを押したときの動作] で [スリープ状態] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する




[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。

[バッテリー駆動] 時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 [変更の保存] ボタンをクリックする

パソコン本体の電源スイッチを押すと、選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

2 ディスプレイを閉じるときの動作の設定

- 1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ システムとセキュリティ] をクリックする
- 3 [ 電源ボタンの動作の変更] をクリックする
- 4 [カバーを閉じたときの動作] で [スリープ状態] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する
[何もしない] [シャットダウン] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
[バッテリー駆動] 時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。
- 5 [変更の保存] ボタンをクリックする
ディスプレイを閉じると、設定した状態へ移行します。
[スリープ状態] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

メモ

- ディスプレイを閉じることによって [スリープ状態] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。


3

タッチパッドとマウス

1 タッチパッドで操作する

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに  が表示されます。この矢印を「ポインター」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインター」を動かしながらパソコンを操作していきます。

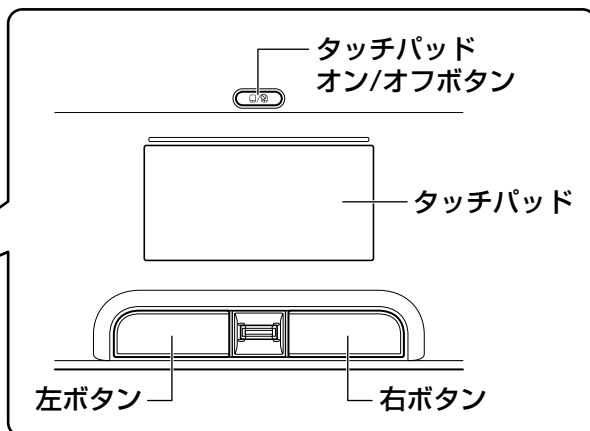
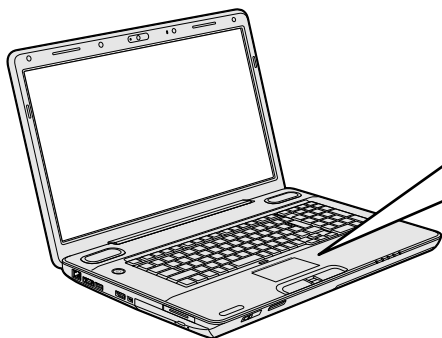
パソコン本体には、「ポインター」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインターを動かし、パソコンを操作してみましょう。

ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

お願い タッチパッドの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **2** - タッチパッドの操作にあたって」を確認してください。

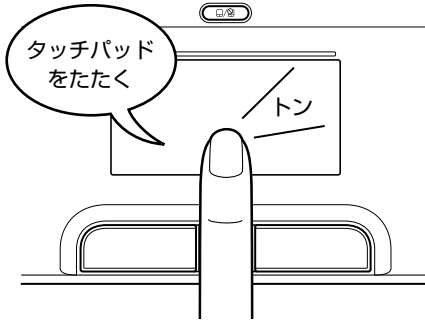


1 タッピングの方法

慣れてきたら、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

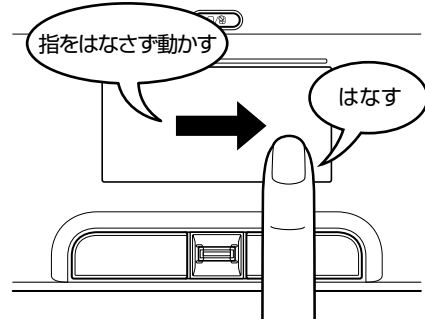
□ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



□ ドラッグアンドドロップ


タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。





2 タッチパッドの使用環境を設定する

タッチパッドやポインターの設定は、[マウスのプロパティ] で行います。

1 [マウスのプロパティ] の起動方法

1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ ハードウェアとサウンド] → [ マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。

3 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、以降の説明を参照してください。

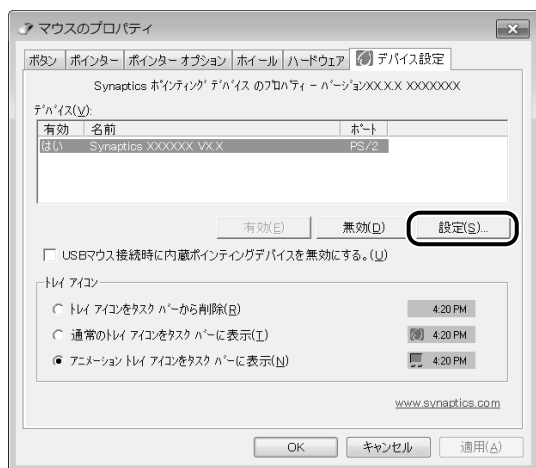
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。



2 タッチパッドの設定方法

[マウスのプロパティ] では、タッチパッドやポインターなどの各種設定ができます。タッチパッドの設定をするには、次のように操作してください。

1 [デバイス設定] タブで [設定] ボタンをクリックする



(表示例)

[デバイス設定] 画面が表示されます。

2 画面左側に表示されているメニューから、設定したい項目をクリックする

画面右側に、選択した項目の設定内容と、その説明が表示されます。説明をよく読んで各項目を設定してください。

項目名の左に (⊕) が表示されている場合、項目名をダブルクリックすると、さらに細かい設定項目が表示されます。



(表示例)


役立つ操作集
タッチパッドを無効／有効にするには

キー操作でタッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。


FN + **F9** キーを押すごとに、タッチパッドの無効／有効が切り替わります。

FN + **F9** キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから手を離してから行ってください。

FN + **F9** キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

USB対応マウス接続時に、自動的にタッチパッドを無効にする

USB対応のマウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

- ① [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- ② [ハードウェアとサウンド] → [マウス] をクリックする
- ③ [デバイス設定] タブで [USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

FN + **F9** キーを押して設定する「タッチパッドオン／オフ機能」とは連動していません。市販のUSB対応マウスをお使いの場合、マウスの種類によっては、本機能が動作しない場合があります。

3 マウスの使いかた

*** マウス付属モデルのみ**

マウスはタッチパッドの左ボタン／右ボタンと同じ働きをします。

モデルによっては、USB対応のレーザーマウスまたは光学式マウスが付属しています。ご購入のモデルのマウスの有無と種類については、『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

マウスは、Windowsのセットアップが終わったあとに、USBコネクタに接続してください。

参照 ▶ マウスの接続について「4章 **2** USB対応機器を使う」

⚠ 注意

- レーザーマウスは、不可視のレーザー光を使用した「クラス1レーザー製品」です。底面のセンサー孔を直接のぞき込まないでください。
- マウス底面の光学式センサーの赤色などの光を直接見ないでください。目を痛めるおそれがあります。

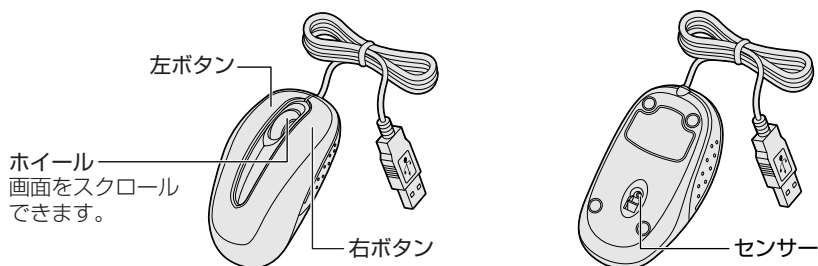

メモ

- USB対応のマウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

参照 ▶ 設定方法

「本節 **2** - **2** - 役立つ操作集 - USBマウス接続時に、自動的にタッチパッドを無効にする」

マウスを使ってポインターを動かしたり、クリック、ダブルクリックなどをしてみましょう。



マウスの持ちかた

マウスを手のひらで包むように持ち、人さし指と中指を各ボタンの上に置きます。



マウスをうまく動かすポイント

マウスを動かす場所がなくなったときは、いったんマウスを持ち上げ、マウスを動かせる位置に戻します。

● マウスパッドについて

付属のマウスの種類（レーザーまたは光学式）に対応したマウスパッドの使用を推奨します。対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

● レーザーマウスの使用場所

マウスは平らな場所で使用してください。

また、ガラスなどの透明な素材、鏡などの光を反射する素材の上では使用しないでください。センサーがうまく動作しない場合があります。

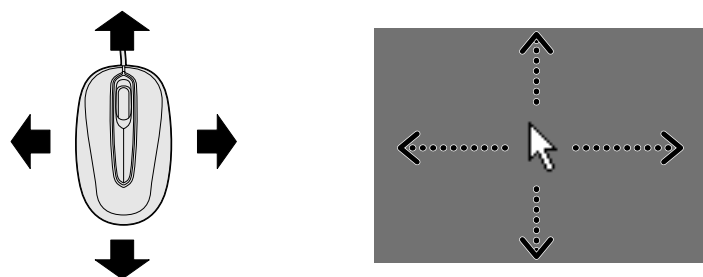
● 光学式マウスの使用場所

マウスは平らな場所で使用してください。

また、ガラスなどの透明な素材、鏡や光沢のあるビニールなどの光を反射する素材の上では使用しないでください。光学式センサーがうまく動作しない場合があります。

1 ポインターを動かす

滑らせるようにしてマウスを上下左右に動かします。ポインターがマウスの動きに合わせて動きます。



2 アイコンを選択する

ポインターを目的の位置に合わせて、左ボタンを1回押し
ます（クリック）。



役立つ操作集
ダブルクリックする

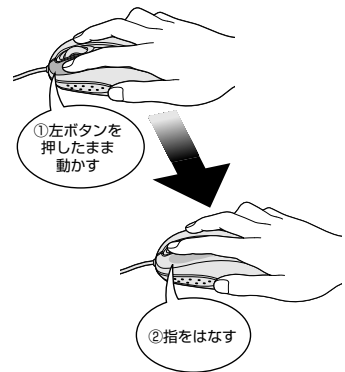
ポインターを目的の位置に合わせて、左ボタンをすばやく2回押すこと
です。
ダブルクリックするときには、マウスが動かないように固定した状態でボ
タンを押してください。

**右クリックする**

ポインターを目的の位置に合わせて、右ボタンを1回押すことです。

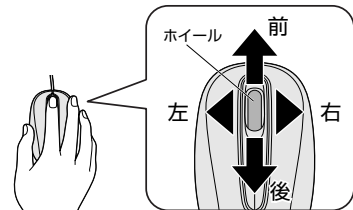

**ドラッグアンドドロップする**

ポインターを目的の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、マ
ウスを動かします①（ドラッグ）。
ポインターが目的の位置に移動したら、ボタンから指をはなしま
す②（ドロップ）。

**スクロールする**

ホイールを前後にまわしたり、左右に傾けたりすると、画面をス
クロールすることができます。

* 左右のスクロールは、横スクロール機能付マウスのみ可能です。



メモ マウスについて

- アプリケーションによっては、ホイールを使ったスクロールに対応していない場合があります。

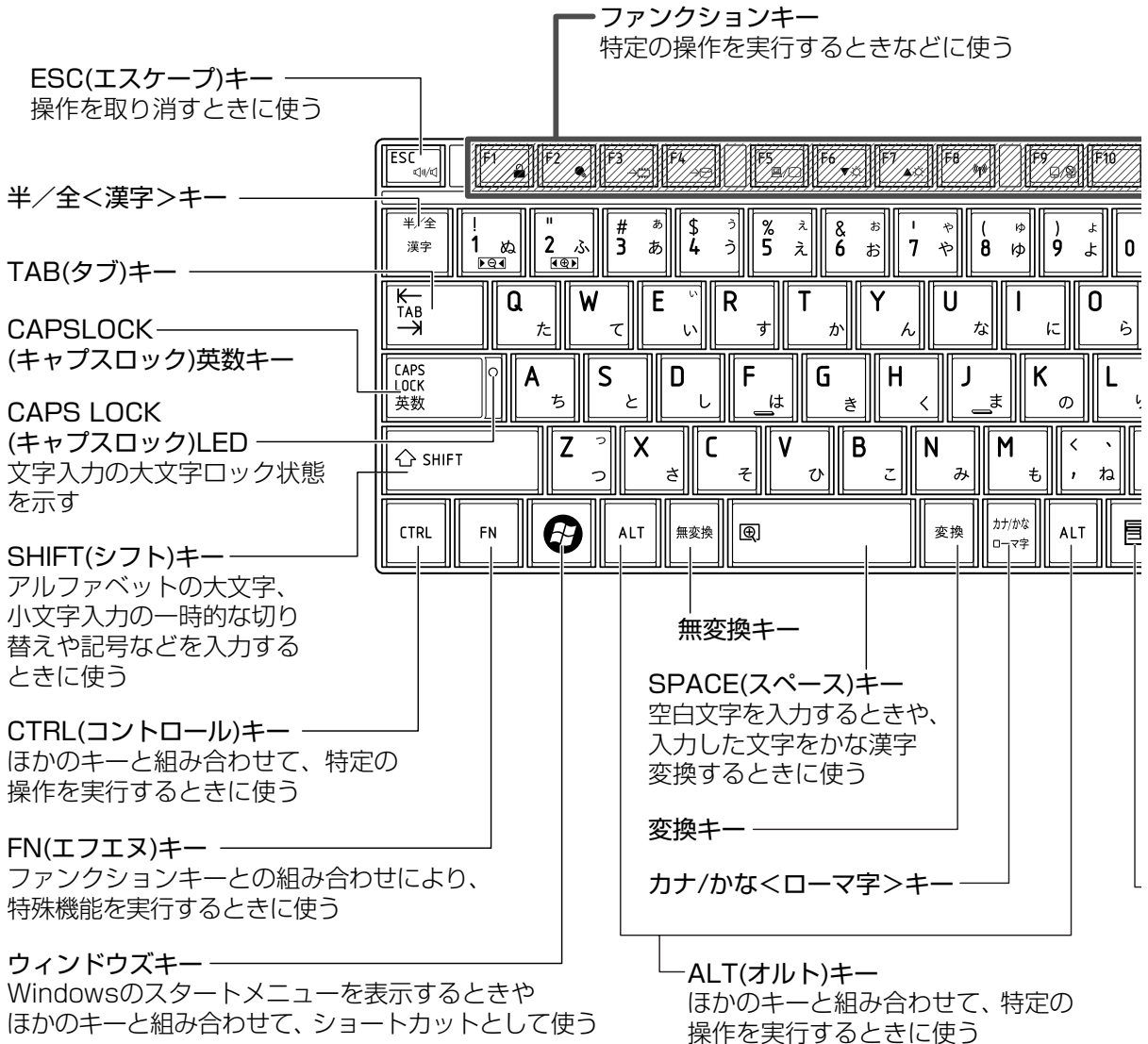
4 キーボード

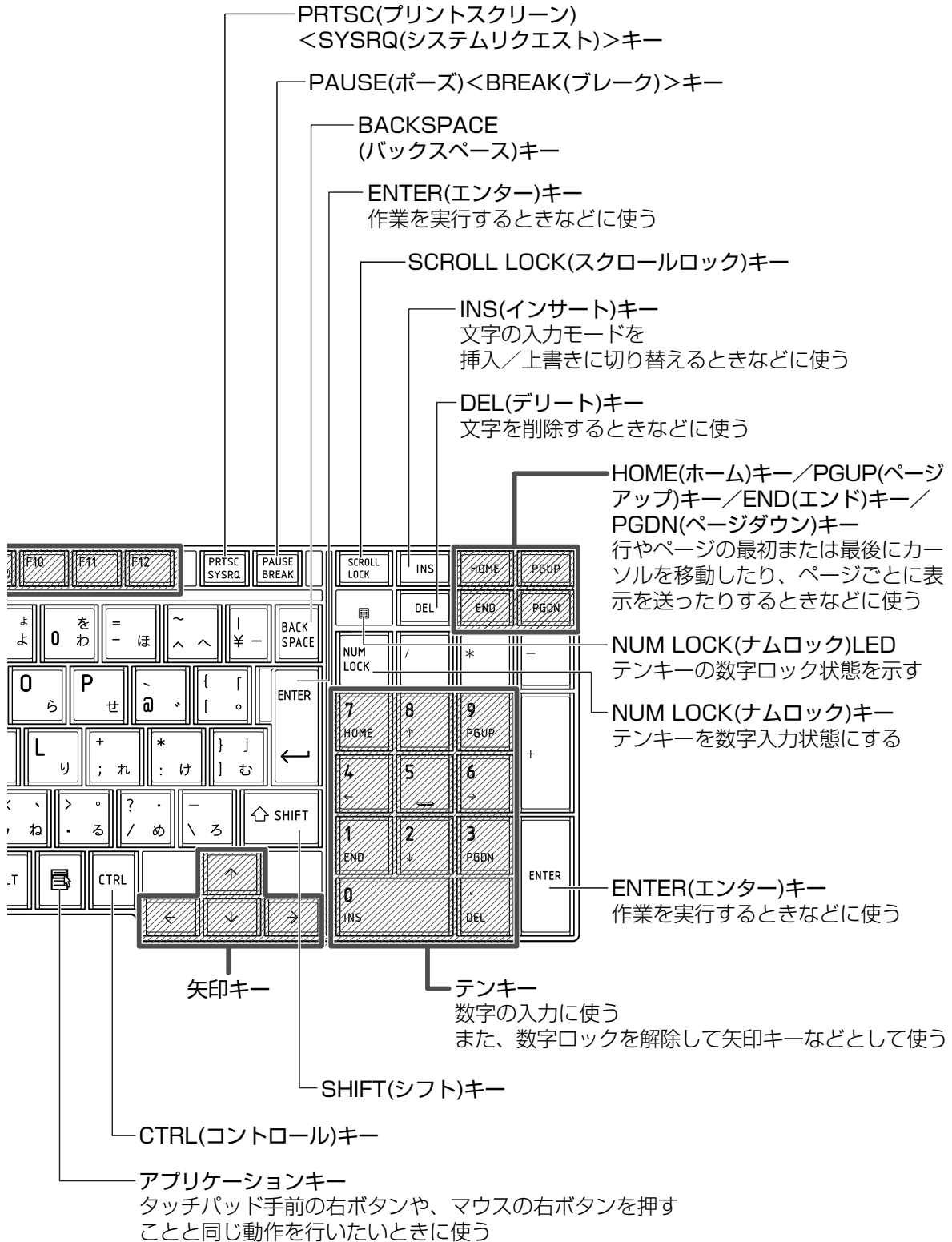
ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

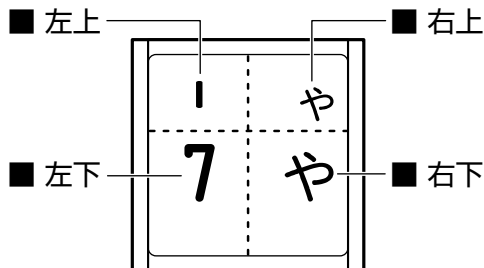
1 キーボード図





2 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。文字キーに印刷されている文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。



左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。 [SHIFT] キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
左下	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態で [SHIFT] キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音 <small>そくおん</small> (小さい「っ」、拗音 <small>ようおん</small> (小さい「ゃ、ゅ、ょ」)などが入力できます。
右下	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

「TOSHIBA Flash Cards」について

「TOSHIBA Flash Cards」は、タッチパッドやマウス操作で簡単にホットキー機能の実行や東芝製のユーティリティを起動することができるユーティリティです。

デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択し、それぞれのカードに割り当てられている機能を設定・実行することができます。

■ 操作方法

1 **[FN]**キーを押す

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。



(表示例)

2 設定したい機能のカードをクリックする

カードとアイコンが表示されます。

3 表示されたアイコンのうち、設定したい項目にポインターを合わせる

ポインターを合わせると、アイコンが大きくなります。

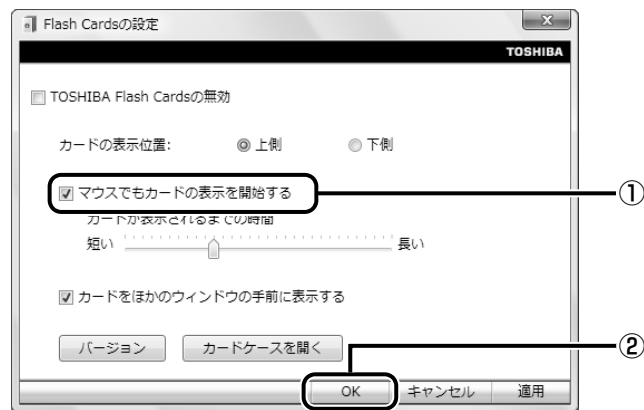
4 設定したい項目のアイコンが大きい状態でクリックする

選択した項目に設定されます。

各カードに割り当てられている機能は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

■ マウス操作でカードを表示させる

ポインターをデスクトップ上部に合わせることによって「TOSHIBA Flash Cards」が表示されるように設定することもできます。次の手順を行ってください。

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Flash Cardsの設定] をクリックする**2** [マウスでもカードの表示を開始する] をチェックし①、[OK] ボタンをクリックする②**■ 「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法****1** [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Flash Cards ヘルプ] をクリックする

キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

□ **FN** キーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN + ESC <スピーカーのミュート>	FN キーを押したまま、 ESC キーを押すたびに内蔵スピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のオン/オフを切り替えます。
FN + SPACE <本体液晶ディスプレイの解像度切替え>	FN キーを押したまま、 SPACE キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
FN + F1 <インスタントセキュリティ機能>	コンピューターをワークステーションロック状態にします。解除するには、ユーザー名をクリックしてください。Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、 ENTER キーを押してください。
FN + F2 <電源プランの設定>	FN + F2 キーを押すと、設定されている電源プランが表示されません。 FN キーを押したまま、 F2 キーを押すたびに電源プランが切り替わります。
FN + F3 <スリープ機能の実行>	FN キーを押したまま、 F3 キーを押し直し、[スリープ] アイコンが大きい状態で指をはなすと、スリープ機能が実行されます。
FN + F4 <休止状態の実行>	FN キーを押したまま、 F4 キーを押し直し、[休止状態] アイコンが大きい状態で指をはなすと、休止状態が実行されます。
FN + F5 <表示装置の切替え>	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章 3 - 2 表示を切り替える」
FN + F6 <本体液晶ディスプレイの輝度を下げる>	FN キーを押したまま、 F6 キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN + F7 <本体液晶ディスプレイの輝度を上げる>	FN キーを押したまま、 F7 キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN + F8 <無線LAN オン/オフ機能>	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、 FN キーを押したまま、 F8 キーを押すたびに使用する無線LANのON/OFFを切り替えます。
FN + F9 <タッチパッド オン/オフ機能>	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度 FN + F9 キーを押します。 参照 詳細について「本章 3 - 2 - 2 役立つ操作集 - タッチパッドを無効/有効にするには」


キー	内容
FN + 1 <縮小>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、 FN キーを押したまま、 1 キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN + 2 <拡大>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、 FN キーを押したまま、 2 キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

役立つ操作集


「TOSHIBA Smooth View」

「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大／縮小表示できるアプリケーションです。

● 起動方法

- ① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Smooth View] をクリックする

● ヘルプの起動方法

- ① 「TOSHIBA Smooth View」を起動後、画面右上の [ヘルプ] ボタン () をクリックする
- ② 画面上の知りたい項目にポインターを合わせ、クリックする

● 使用方法

- ① **FN**キーを押したまま、**1**キーまたは**2**キーを押す
画面やアイコンなどを縮小するときは**1**キー、拡大するときは**2**キーを押します。

□ 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャーの起動	CTRL + SHIFT + ESC	[Windows タスクマネージャー] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PRTSC	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT + PRTSC	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

5 ハードディスクドライブ

本製品には、ハードディスクドライブが1台内蔵されています。
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
USB接続型やeSATA接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。


2章

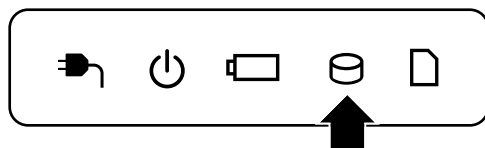
パソコンの基本操作を覚えよう

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1**-**3** ハードディスクドライブについて」を確認してください。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクやドライブ、eSATA接続型のハードディスクなどとデータをやり取りしているときは、Disk  LEDが点灯します。



ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

本製品には、ブルーレイディスクドライブが1台内蔵されています。

●ブルーレイディスクドライブ



* マークの位置や並び順は異なる場合があります。

CD、DVD、ブルーレイディスクを使用できます。

『安心してお使いいただくために』に、CD/DVD/ブルーレイディスクを使用するときを守ってほしいことが記述されています。

CD/DVD/ブルーレイディスクを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

ブルーレイディスクドライブ、ブルーレイディスクについては、『安心してお使いいただくために』に記述されているDVDドライブ、DVDメディアについてと同様です。

1 使える記録メディアを確認しよう

使用できるCD/DVD/ブルーレイディスクの詳細と書き込み速度については、「付録 2 記録メディアについて」と『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

○：使用できる ×：使用できない

	読み出し*1	書き込み回数
CD-ROM	○	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能*2
DVD-ROM	○	×
DVD-R*4	○*3	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能*2
DVD+R*5	○*3	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能*2
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能*2
BD-ROM	○	×
BD-R*6	○	1回
BD-RE*7	○	繰り返し書き換え可能*2

*1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

*2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

*3 メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。

*4 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL (Dual Layer DVD-R) を含みます。

*5 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL (DVD+R Double Layer) を含みます。


*6 本書では、「BD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、BD-R DL (Dual Layer) を含みます。

*7 本書では、「BD-RE」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、BD-RE DL (Dual Layer) を含みます。

メモ

- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

CD/DVDにデータのバックアップをとる

CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RWにデータをコピーするには、本製品に添付されている「TOSHIBA Disc Creator」^{トウシバ ディスク クリエイター}を使います。[スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [CD&DVDアプリケーション] → [Disc Creator] から起動します。

データをコピーする（書き込む）際に気をつけていただきたいことがあります。また、それぞれ対応しているメディアが異なります。以降の説明をよくお読みになってから書き込んでください。

メモ

- DVD-RAMにデータを書き込む場合は、バックアップしたいファイルやフォルダを [DVD-RAMドライブ] にコピーしてください。

詳しくは、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

DVD-RAMのフォーマットには、「東芝DVD-RAMユーティリティ」を使用してください。

参照 詳細について「本節 **4** DVD-RAMをフォーマットする」

- CD-R、CD-RWなどにバックアップをとった場合、そのデータは書き込み不可になっている場合があります。この場合、バックアップをとったデータを使うときには、1度ハードディスクドライブなどにコピーしてからそのデータを右クリック→ [プロパティ] で、[読み取り専用] のチェックをはずしてください。

お願い CD/DVDに書き込む前に、書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、「付録 **1-9** CD/DVD/BDにデータのバックアップをとる」を確認してください。

「TOSHIBA Disc Creator」で使用できるメディアは次のとおりです。

○：使用できる ×：使用できない

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○*1・2	○*1	○*1・3	○*1	×

*1 DVD-Video、DVD-VR、DVD-Audio の作成はできません。また、DVDプレーヤーなどで使用することはできません。

*2 DVD-R DLを含みます。なお、DVD-R DLには追記ができません。

*3 DVD+R DLを含みます。

ブルーレイディスクにデータのバックアップをとる

BD-R、BD-REにデータを書き込む場合は、バックアップしたいファイルやフォルダを「ブルーレイディスクドライブ」にコピーしてください。

未使用または何も保存されていないBD-REを使用する場合は、あらかじめフォーマットをする方式があります。その場合にはWindowsのフォーマットの機能を使用してください。

詳しくは、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

データをコピーする（書き込む）際に気をつけていただきたいことがあります。以降の説明をよくお読みになってから書き込んでください。


お願い ブルーレイディスクに書き込む前に、書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、「付録 **1 - 9** CD/DVD/BDにデータのバックアップをとる」を確認してください。

ブルーレイディスクの再生について

本製品では、ドライブにブルーレイディスクをセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

ブルーレイディスク再生ソフトウェアとして、ウィンディーバイディービーディーフォー「WinDVD BD for TOSHIBA」トウシバが用意されています。

[スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [WinDVD BD for TOSHIBA] から起動します。


お願い ブルーレイディスクの再生にあたって

- あらかじめ、「付録 **1 - 10** ブルーレイディスクの再生にあたって」を確認してください。

DVDの再生について

本製品では、ドライブにDVDをセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD再生ソフトウェアとして、トウシバ「TOSHIBA DVD PLAYER」ディーバイディー プレーヤーが用意されています。

[スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA DVD PLAYER] → [TOSHIBA DVD PLAYER] から起動します。

お願い DVDの再生にあたって

- あらかじめ、「付録 **1 - 11** DVDの再生にあたって」を確認してください。


2 CD/DVD/BDを使うとき (セット)

CD/DVD/ブルーレイディスクは、パソコン本体に装備されているドライブにセットして使用します。

お願い CD/DVD/ブルーレイディスクの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1-4** CD/DVD/ブルーレイディスクについて」、「付録 **2-1** 使えるCDを確認しよう」、「付録 **2-2** 使えるDVDを確認しよう」、「付録 **2-3** 使えるブルーレイディスクを確認しよう」を確認してください。

メモ セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどいCD/DVD/ブルーレイディスクの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD/DVD/ブルーレイディスクの特性やCD/DVD/ブルーレイディスクへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
- CD/DVD/ブルーレイディスクの種類によっては、取り出すときWindowsが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。よく確認してからCD/DVD/ブルーレイディスクをセットしてください。このWindowsの機能を無効にするには、次のように操作してください。
 - ① [スタート] ボタン () → [コンピューター] をクリックする
 - ② ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックする
ドライブのプロパティ画面が表示されます。
 - ③ [書き込み] タブで [共通の設定] ボタンをクリックする
 - ④ [共通の設定] 画面で [シングルセッションディスクを取り出すとき] と [マルチセッションディスクを取り出すとき] のチェックをはずし、[OK] ボタンをクリックする

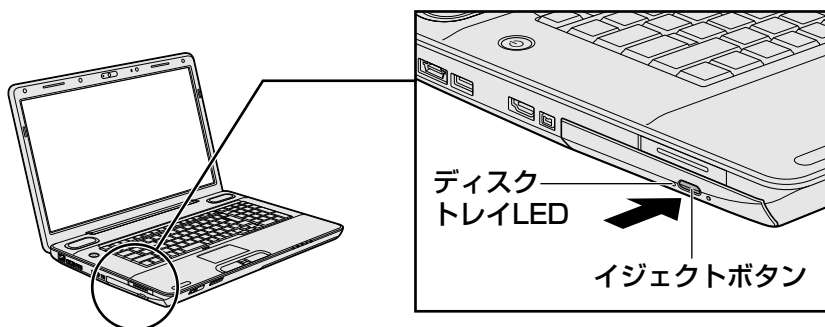
ドライブに関する表示

パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLEDが点灯します。

1 パソコン本体の電源を入れる

Windowsが起動します。

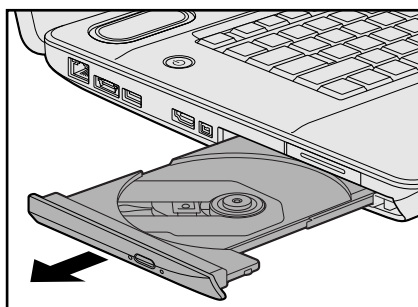
2 イジェクトボタンを押す



イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

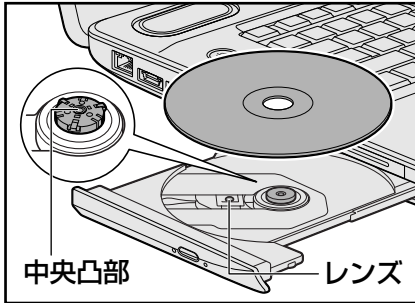
※ 購入したモデルによってイジェクトボタンの位置は異なります。

3 ディスクトレイを引き出す



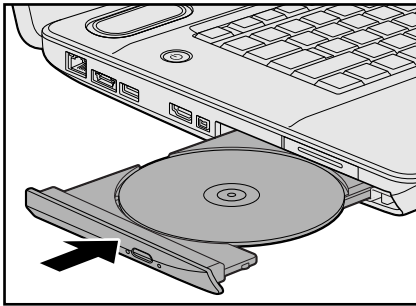
CD/DVD/ブルーレイディスクをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

- 4** 文字が書いてある面を上にして、CD/DVD/ブルーレイディスクの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする



「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

- 5** 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



3 CD/DVD/BDを使い終わったとき（取り出し）

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

電源が入っていない場合は電源を入れてください。

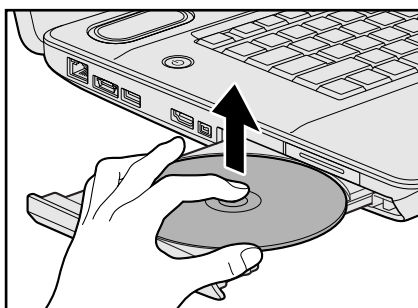
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

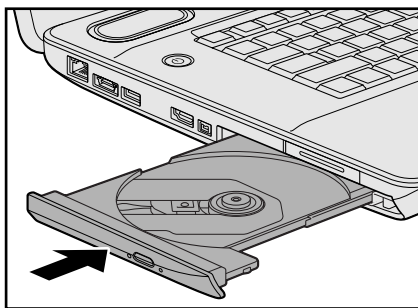
CD/DVD/ブルーレイディスクをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD/DVD/ブルーレイディスクの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す



CD/DVD/ブルーレイディスクを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押ししてください。簡単に取り出せるようになります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



CD/DVD/ブルーレイディスクが出てこない場合

電源を切っているとき、または休止状態のときは、イジェクトボタンを押してもCD/DVD/ブルーレイディスクは出てきません。電源を入れてからイジェクトボタンを押し、CD/DVD/ブルーレイディスクを取り出してください。

次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押したあとすぐにCD/DVD/ブルーレイディスクは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- スリープ状態のとき

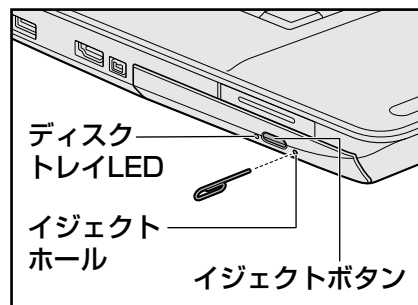
上記以外でCD/DVD/ブルーレイディスクが出てこない場合は、次のように操作してください。

● Windows動作中の場合

CD/DVD/ブルーレイディスクを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。

● パソコン本体の電源が入らない場合

電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。



※ 搭載されているドライブによってイジェクトボタン、イジェクトホール、ディスクトレイLEDの位置は異なります。

4 DVD-RAMをフォーマットする

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。

お願い

DVD-RAMのフォーマットについて

- あらかじめ、「付録 1 - 4 - DVD-RAMのフォーマットについて」を確認してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにはファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

選択できるファイルシステムは「UDF2.5」「UDF2.01」「UDF2.0」「UDF1.5」「UDF1.02」「FAT32」です。


DVD-RAMのセクターの一部に不具合が生じた場合などに、通常のフォーマットとは違う「物理フォーマット」を行う場合があります。通常、購入したばかりなどのDVD-RAMに対しては、物理フォーマットを行う必要はありません。

物理フォーマットに対して、通常のフォーマットを「論理フォーマット」と呼びます。

なお、物理フォーマットを行ったあとは、論理フォーマットが必要となります。

1 論理フォーマット

通常のフォーマット（論理フォーマット）は、Windows上で実行できます。

フォーマット方法については、[スタート] ボタン () → [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

2 物理フォーマット

物理フォーマットを行うには、非常に時間がかかります。

1 物理フォーマットするDVD-RAMをセットする

2 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [CD&DVDアプリケーション] → [DVD-RAMユーティリティ] をクリックする

[東芝DVD-RAMユーティリティ] 画面が表示されます。

3 [開始] ボタンをクリックする

以降、画面に表示されるメッセージに従ってください。

物理フォーマットをしたあとは、論理フォーマットが必要です。

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを内蔵しています。

- GXシリーズの場合 : 1680×945ドット
- GXWシリーズの場合 : 1920×1080ドット

ドットは画素数を表します。

テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。

□ 輝度の調整方法

FN + **F6** : **FN** キーを押したまま、**F6** キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。

表示される「輝度」のカードとスライダバーで状態を確認できます。

FN + **F7** : **FN** キーを押したまま、**F7** キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。

表示される「輝度」のカードとスライダバーで状態を確認できます。

メモ

- 上記の方法でディスプレイの明るさを調整した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると、もとの明るさに戻ります。
パソコンの電源オフや再起動に関係なく明るさを調整したいときは、「電源オプション」で設定してください。

参照 ▶ 「5章 2-1 電源オプション」

8 サウンド

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、音量ボタン、または音量ミキサーから調整できます。

1 音量ボタンで調整する





- パソコンの起動時、または電源を切っているときは、音量ボタンに触れても音量調節はできません。

1 パソコン本体の音量ボタンに触れる

音量ボタンの位置は、『取扱説明書』で確認してください。
音量ボタンの「+」に1回触れると音が大きくなります。
音量ボタンの「-」に1回触れると音が小さくなります。
音量を確認しながら、音量ボタンに何度か触れて調整してください。


2 音量ミキサーから調整する

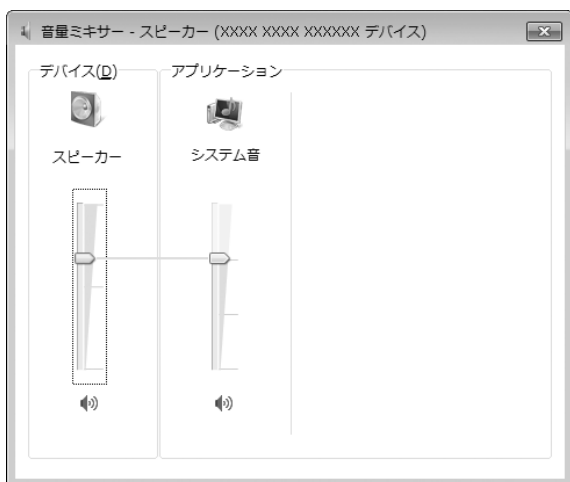
1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ ハードウェアとサウンド] → [ システム音量の調整] をクリックする

[音量ミキサー] 画面が表示されます。

3 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する

[ミュート] ボタン () をクリックすると消音 (ミュート) になります。



(表示例)

□ 音楽／音声を再生するとき

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。





スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（Windowsの終了、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

3 SmartAudioについて

「Conexant™ SmartAudio」では、オーディオ機能のいろいろな設定を変更することができます。

設定方法


- 1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ ハードウェアとサウンド] → [ SmartAudio] をクリックする
[SMARTAudio] 画面が表示されます。
- 3 オーディオ機能を調整する
- 4 [閉じる] ボタン () をクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 SmartAudioを起動後、画面右上の  ボタンをクリックする
SmartAudioのヘルプが起動します。

4 Dolby Sound Roomについて

本製品は、音響補正技術「Dolby Sound Room」を搭載しています。

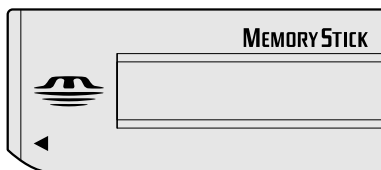
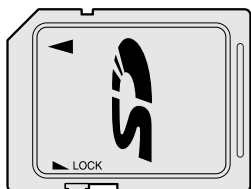
- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [Dolby] → [Dolby Control Center] → [Dolby Control Center] をクリックする
[Dolby Control Center] が表示されます。

9

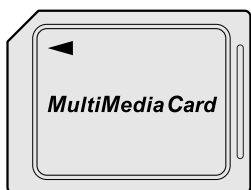
いろいろなメディアカードを使う — ブリッジメディアスロット —

本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SDメモリカード*1
- SDHCメモリカード*1
- メモリースティック
- メモリースティックPRO



- マルチメディアカード

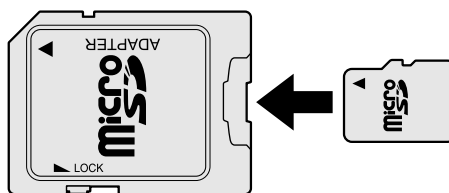
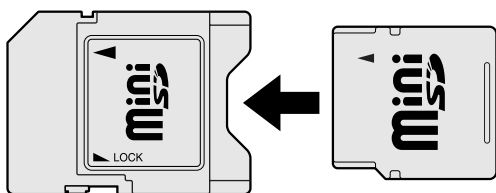


- xD-ピクチャーカード

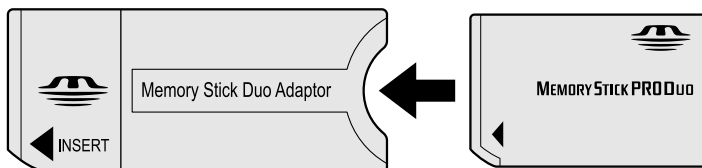


次のメディアカードは、市販のアダプターを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ずアダプターを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモリカード*1
SDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを使用します。
- microSDメモリカード*1
SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを使用します。



- メモリースティック デュオ / メモリースティックPRO デュオ
メモリースティック デュオ アダプターを使用します。



*1 著作権保護技術CPRMに対応しています。

アダプターの装着や使用方法は、メディアカードの取扱説明書を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

それぞれのメディアカードで使用できる容量については『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモ리카ードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器(デジタルカメラなど)を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 メディアカードを使う前に

お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 **2**-**4** メディアカードを使う前に」を確認してください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、メディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メディアカードを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器(デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど)で行ってください。

SDメモ리카ードとSDHCメモ리카ードは、再フォーマットをするときに「東芝SDメモ리카ードフォーマット」も使用できます。

「東芝SDメモ리카ードフォーマット」については、「本項-「東芝SDメモ리카ードフォーマット」を使ってフォーマットする」をご覧ください。


「東芝SDメモ리카ードフォーマット」を使ってフォーマットする

お願い フォーマットするにあたって

- あらかじめ、「付録 **2**-**4**-**2** - SDメモ리카ード/SDHCメモ리카ードのフォーマットについて」を確認してください。

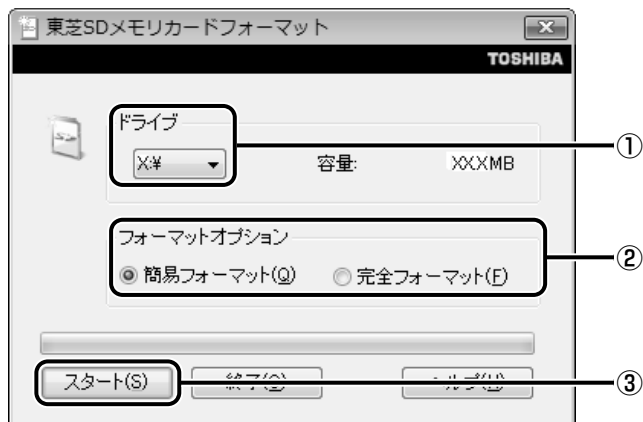
1 SDメモ리카ード/SDHCメモ리카ードをセットする

2 SDメモ리카ード/SDHCメモ리카ードを使用するアプリケーションを起動している場合は終了する

3 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [SDメモ리카ードフォーマット] をクリックする

[東芝SDメモ리카ードフォーマット] 画面が表示されます。

- 4** フォーマットしたいSDメモリカード／SDHCメモリカードがセットされているドライブを確認し①、必要に応じてフォーマットの種類を設定し②、[スタート] ボタンをクリックする③



● 簡易フォーマット

ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。

● 完全フォーマット

SDメモリカード／SDHCメモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

- 5** メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。


- 6** メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

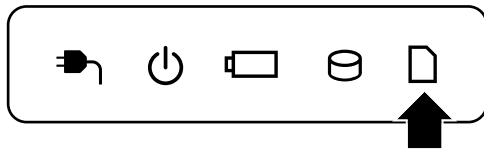
これで、フォーマットは完了です。

フォーマットを終了する場合は、[終了] ボタンをクリックしてください。

2 メディアカードのセットと取り出し

ブリッジメディアスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアカードとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディア  LEDが点灯します。



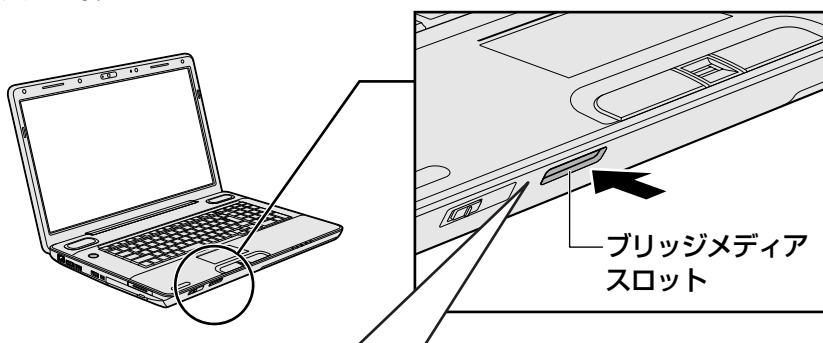
お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **2-4-1** メディアカードの操作にあたって」を確認してください。

1 セットする

1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。



お願い

- miniSDメモ리카ード、microSDメモ리카ードは、SDメモ리카ードサイズのアダプターが必要です。
メモリースティック デュオ、メモリースティックPRO デュオは、メモリースティック デュオ アダプターが必要です。
アダプターを使用せずに直接挿入すると、取り出せなくなります。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

著作権保護されているファイルについては、見るることができない場合があります。

1 [スタート] ボタン () → [コンピューター] をクリックする

[コンピューター] 画面が表示されます。

2 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

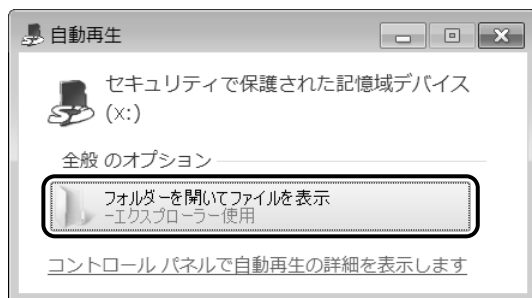
SDメモ리카ード	: リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス
SDHCメモ리카ード	: リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス
メモリースティック	: リムーバブルディスク、MS/MSPro
メモリースティックPRO	: リムーバブルディスク、MS/MSPro
xD-ピクチャーカード	: リムーバブルディスク、xD-Picture Card
マルチメディアカード	: リムーバブルディスク、MMC 記憶域デバイス

(表示例)

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

メモ

- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、[フォルダーを開いてファイルを表示] を選択してください。




(表示例)


3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。


ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

- ① 通知領域の【ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す】アイコン () をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。



- ② 表示されたメニューから【(取りはずすメディアカード)の取り出し】をクリックする
- ③ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、  をクリックする

2 メディアカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

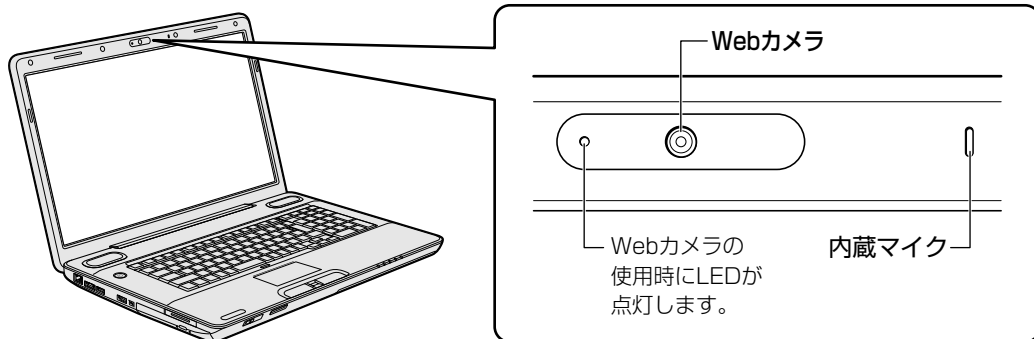
10 Webカメラを使う

本製品には、「Webカメラ」が内蔵されています。

専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。

2章

パソコンの基本操作を覚えよう



お願い

Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、「付録 **1** - **12** Webカメラについて」を確認してください。


1 Webカメラのアプリケーションについて

本製品には、Webカメラ用のアプリケーションが用意されています。

1 起動方法


購入時の状態では、Windowsを起動すると画面左側にWebカメラのアプリケーションが隠れています。カーソルを画面の左隅に向かって動かすと、「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面が表示されます。

アプリケーションを終了させた場合は、次のように操作して起動してください。

- 1 【スタート】 ボタン () → 【すべてのプログラム】 → 【TOSHIBA】 → 【ユーティリティ】 → 【ウェブカメラアプリケーション】 をクリックする

「東芝ウェブカメラアプリケーション」が起動します。

2 写真や動画を撮影する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、【写真/ビデオ】 () を選択してください。

カメラ画面が表示されます。

画面上の各ボタンの概要は、次のようになっています。

詳細は「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

- **左端のボタン**

画面の解像度を設定できます。

- **【設定】 ボタン**

撮影した画像や映像の保存先や、保存形式、映像品質を設定できます。

- **【キャプチャ】 ボタン**

画面に映っている画像を、写真として撮影します。


- **【録画】 ボタン**

画面に映っている画像を、映像として録画します。

- **右端の【>】 ボタン**

画面右側に表示できるプレビューの、表示／非表示を切り替えます。

3 画面を編集する


「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、[設定] () を選択してください。設定画面が表示されます。

各タブの概要は、次のようになっています。

- [全般] タブ
明るさやコントラスト、色調、彩度、鮮明度などを設定できます。
- [アドバンスト] タブ
ズーム機能や撮影時のカメラ制御、フォーカス、フラッシュなどを設定できます。


詳細は「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

4 画像品質を設定する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、[エフェクト] () を選択してください。

フレームやスクリーンカバーを選択できる、設定画面が表示されます。


5 顔照合機能を起動する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、[Face Recognition] () を選択してください。

「TOSHIBA Face Recognition」が起動します。

参照 ▶ 「本節 2 顔照合機能」

ヘルプの起動方法

- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [ウェブカメラアプリケーションヘルプ] をクリックする

2 顔照合機能

Webカメラを使うアプリケーションに、「TOSHIBA Face Recognition」という顔照合機能があります。

顔照合とは、顔をWebカメラに映して登録し、登録した顔でWindowsのログオン時などに照合させることができる機能です。顔照合機能を使用することによってパスワードなどの入力を省略し、簡単にログオンすることが可能になります。

なお、本機能はセキュリティを目的としたWindowsパスワードの置き換えには適しません。詳しくは付録の注意事項をお読みになり、ご利用ください。

お願い 顔照合機能の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 13 顔照合機能について」を確認してください。

起動方法

「TOSHIBA Face Recognition」を起動するには、次の手順を実行してください。

- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Face Recognition] をクリックする

操作方法の詳細は、「TOSHIBA Face Recognition」のヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

「TOSHIBA Face Recognition」のヘルプを起動するには、次の手順を実行してください。

- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Face Recognition ヘルプ] をクリックする

3 章

■ ネットワークの世界へ

本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、ほかのパソコン
と通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界.....	64
---------------------	----

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

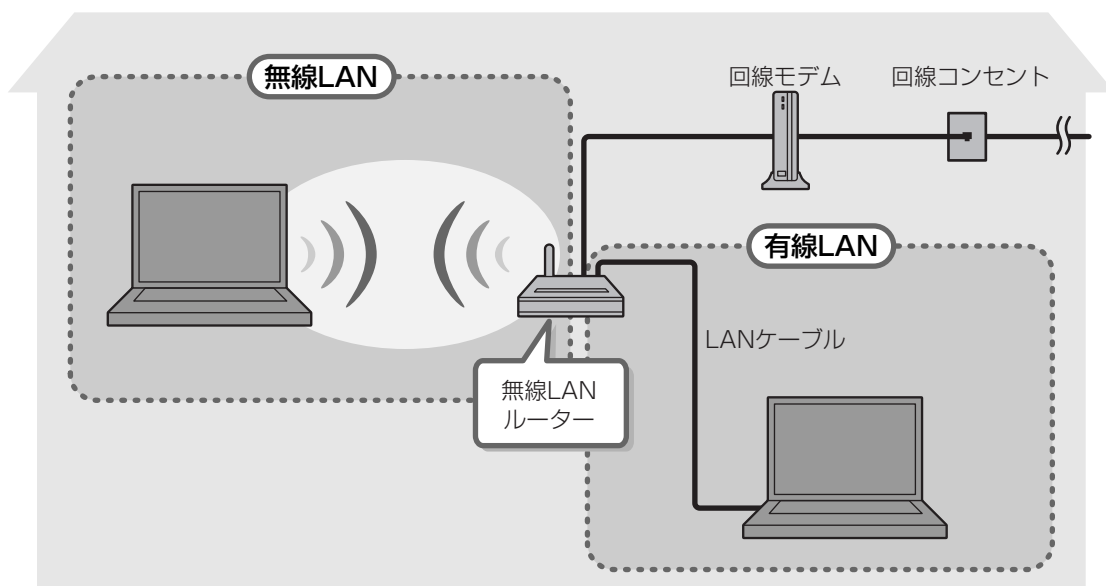
1 LAN接続はこんなに便利

3章

ネットワークの世界へ

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っているなど、複数のパソコンがあるときは、LAN (Local Area Network) を使うと便利です。

LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。



(接続例)


■ 有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本節 **2** ブロードバンドで接続する」を参照してください。

■ 無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。

無線LANルーターや無線LANアクセスポイント (市販) を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳細い設定については、[スタート] ボタン () → [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

ネットワークに接続している機器の設定は、それぞれの取扱説明書を確認してください。また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 ブロードバンドで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN機能が搭載されています。本製品のLANコネクタにブロードバンドの回線機器やブロードバンドルーターなどをLANケーブルで接続することができます。

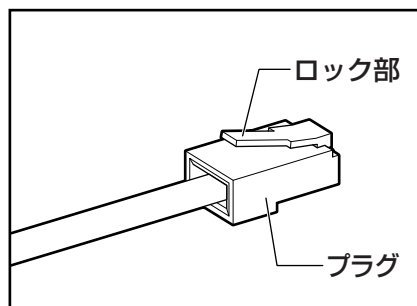
また、本製品のLAN機能は、ギガビット Gigabit Ethernet (1000BASE-T)、イーサネット Fast Ethernet (100BASE-TX)、イーサネット Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境 (接続機器、ケーブル、ノイズなど) により、自動で切り替わります。

1 LANケーブルを接続する

お願い LANケーブルの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 有線LANについて」を確認してください。

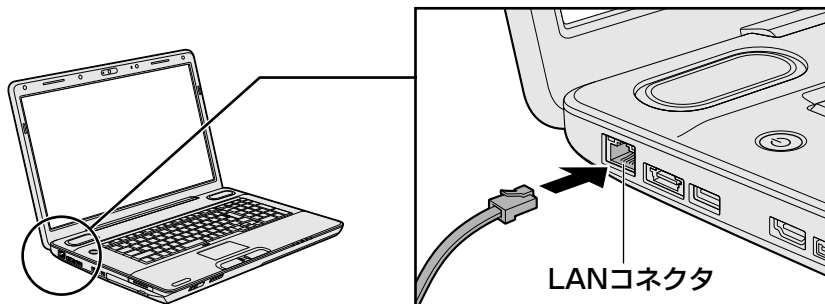
LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

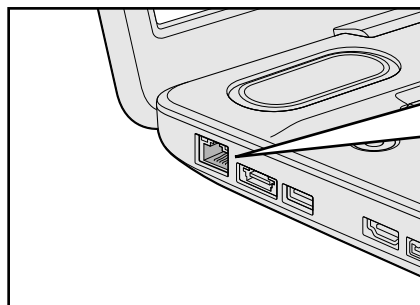


3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダーによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダーにお問い合わせください。

動作状態を確認するには

LANコネクタの両脇には、LANインターフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。




- LANアクティブLED (橙)
データを送受信しているときに点灯します。
- リンクLED (緑)
ネットワークに正常に接続され、使用可能なときに点灯します。

3 ワイヤレス（無線）LANを使う

1 無線LANモジュールの確認

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類は、「ConfigFree」^{コンフィグフリー}を使って確認できます。

1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

2 表示されたメニューでアダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、次のようになります。

- 「Realtek RTL8191SE Wireless LAN 802.11n PCI-E NIC」の場合
IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11n draft2.0に対応したモジュールです。このモジュールを、「Realtek b/g/nモジュール」と呼びます。
- 「Intel(R) WiFi Link 5100 AGN」の場合
IEEE802.11a (W52/W53/W56)、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11n draft2.0に対応したモジュールです。このモジュールを、「Intel a/b/g/nモジュール」と呼びます。

その他の本製品の無線LANモジュールの仕様については、「付録 6-1 無線LANの概要」と『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

2 無線LANを使ってみよう

警告

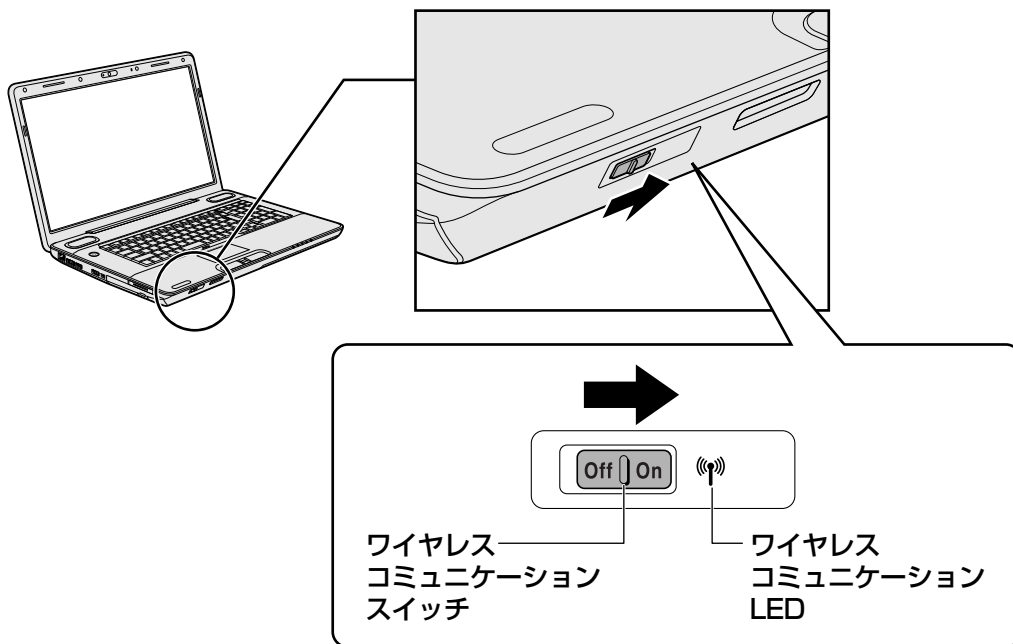
- 無線LANモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にして、電波の発信を止めるようにしてください。

お願い 無線LANのご使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1-6 無線LANについて」を確認してください。
- 『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関する注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1 本体前面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線) LEDが点灯します。

以降の無線の設定方法には、次の2種類があります。

- 「ConfigFree」を使う
- Windows標準機能を使う

「ConfigFree」を使って設定する場合は、「本項 **2** - 役立つ操作集 - ConfigFree」を参照してください。

また、Windows標準機能を使って設定する場合は、[スタート] ボタン (Windows) → [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。




役立つ操作集

ConfigFree


本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。詳細については、「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。

「ConfigFree」は、コンピューターの管理者のユーザーアカウントで使用してください。


● ファーストユーザーズガイドの起動方法

- ① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ConfigFree] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックする

● 「ConfigFree」の起動方法

購入時の状態では、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン () が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

- ① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ConfigFree] → [ConfigFree トレイ] をクリックする

3 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。



参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線アクセスポイント、無線LANカードの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。

本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。

次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

- 1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- 2  [インターネットへの接続] をクリック → [ワイヤレス] をクリックする
現在のワイヤレスネットワークへの接続状態が表示されます。
- 3 画面右下の [ワイヤレスネットワーク接続] 画面で、接続したいアクセスポイント名をクリックする
- 4 [自動的に接続する] をチェックし、[接続] ボタンをクリックする
- 5 [ネットワークに接続] 画面で必要なネットワークセキュリティ情報を入力し、[OK] ボタンをクリックする

選択する項目、データ暗号化の方式、ネットワーク キーの詳細については、お使いになる無線アクセスポイントの取扱説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線アクセスポイントに接続できない場合があります。

4 章

■ 周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。

そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。

本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1	周辺機器を使う前に.....	72
2	USB対応機器を使う.....	73
3	eSATA対応機器を使う.....	76
4	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を使う.....	78
5	マイクロホンやヘッドホンを使う.....	80
6	光デジタル対応機器の接続.....	83
7	ExpressCardを使う.....	85
8	テレビの接続.....	88
9	外部ディスプレイの接続.....	96

1

周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。周辺機器には、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものと、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものがあります。

■ 内蔵方式のもの

- メモリ
- バッテリー

■ 外付け方式のもの

本製品のインターフェースにあった周辺機器をご利用ください。

周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。

購入される際には、目的にあった機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

参照▶ コネクタの仕様について「付録 **5** 各インターフェースの仕様」

お願い 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 **1-7** 周辺機器について」を確認してください。

本製品で使用できるおもな周辺機器は、次のとおりです。

- メモリ
参照▶ メモリの増設「取扱説明書」
- USB対応機器
参照▶ USB対応機器「本章 **2** USB対応機器を使う」
- eSATA対応機器
参照▶ eSATA対応機器「本章 **3** eSATA対応機器を使う」
- i.LINK (IEEE1394) 対応機器
参照▶ i.LINK (IEEE1394) 対応機器「本章 **4** i.LINK (IEEE1394) 対応機器を使う」
- マイクロホンとヘッドホン／光デジタル対応機器 (MDレコーダー、MDコンポなど)
参照▶ 「本章 **5** マイクロホンやヘッドホンを使う／本章 **6** 光デジタル対応機器の接続」
- ExpressCard
参照▶ ExpressCard「本章 **7** ExpressCardを使う」
- テレビ
参照▶ テレビの接続「本章 **8** テレビの接続」
- 外部ディスプレイ
参照▶ 外部ディスプレイの接続「本章 **9** 外部ディスプレイの接続」

ユーザーズビ

USB対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができます。

また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。

USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。

USB対応機器の詳細については、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

USBの常時給電

(⚡) アイコンが付いているUSBコネクタでは、パソコン本体の電源がOFFの状態（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給することができます。

本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどの外部機器の使用および充電ができます。

* USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、外部機器によっては本機能を使用できない場合があります。

お願い USBの常時給電について

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - USBの常時給電について」を確認してください。

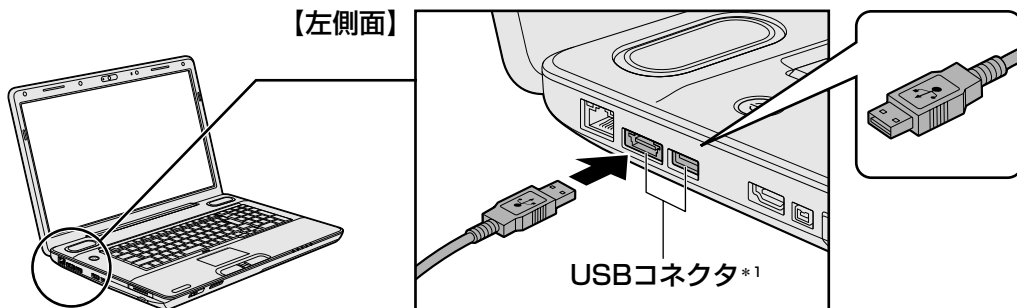
1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

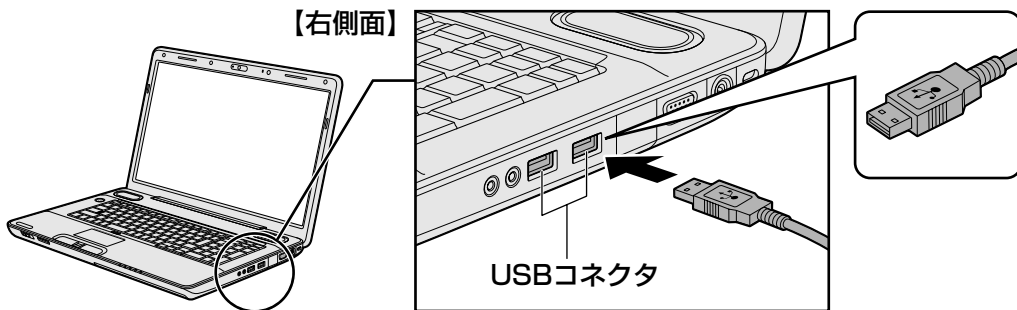
この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。





*1 奥側のUSBコネクタは、eSATAコネクタを兼ねています。



2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

① 通知領域の「ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す」アイコン () をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、次の手順は必要ありません。
手順 **2** に進んでください。



② 表示されたメニューから [(取りはずすUSB対応機器) の取り出し] をクリックする
③ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、  をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

3

eSATA対応機器を使う

イーエスエーティーイー

eSATA 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができます。

また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。

eSATA対応機器には次のようなものがあります。

- eSATA対応ハードディスクドライブ など

eSATA対応機器の詳細については、『eSATA対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い eSATA対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1-7** - eSATA対応機器の操作にあたって」を確認してください。

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

1 取り付け

本製品のeSATAコネクタは、USBコネクタを兼ねています。

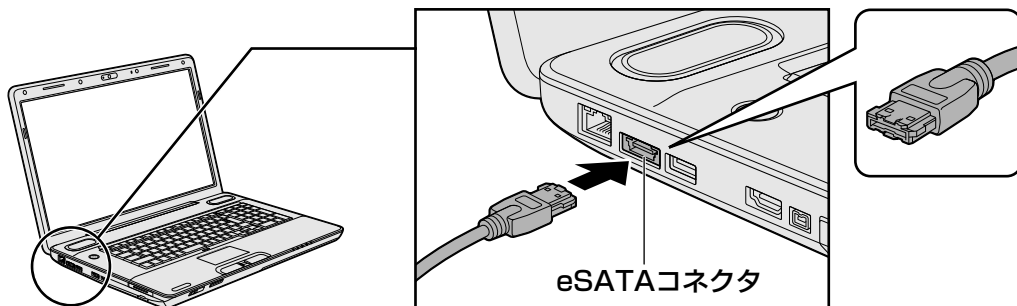
参照 ▶ 「本章 **2** USB対応機器を使う」

1 eSATAケーブルのプラグをeSATA対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。eSATA対応機器についての詳細は、『eSATA対応機器に付属の説明書』を確認してください。


2 eSATAケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のeSATAコネクタに差し込む


プラグの向きを確認して差し込んでください。




2 取りはずし

1 eSATA対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す」アイコン () をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないeSATA対応機器は、次の手順は必要ありません。
手順 **2** に進んでください。



- ② 表示されたメニューから [(取りはずすeSATA対応機器) の取り出し] をクリックする
- ③ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、  をクリックする

2 パソコン本体とeSATA対応機器に差し込んであるeSATAケーブルを抜く

4 章

周辺機器を使って機能を広げよう

4

i.LINK (IEEE1394) 対応機器を使う

アイリンク アイトリプルイーイチサンキュウヨン

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINKコネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK対応ハードディスクドライブ
- i.LINK対応MOドライブ
- i.LINK対応プリンター など

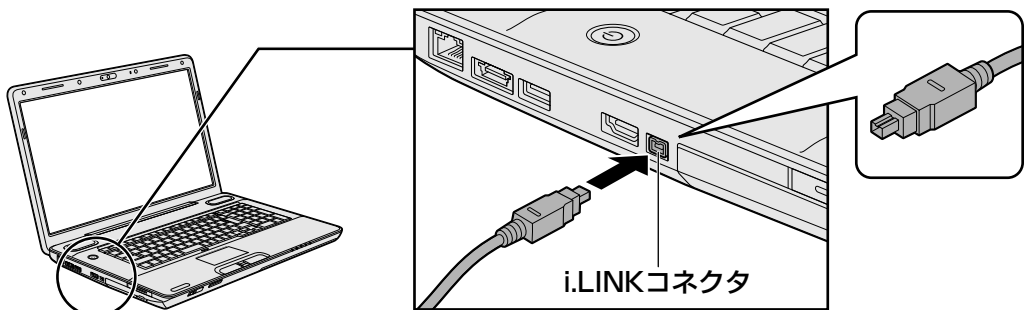
i.LINK対応機器の詳細については、『i.LINK対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **7** - i.LINK (IEEE1394) 対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 取り付け

1 ケーブルのプラグをパソコン本体のi.LINKコネクタに差し込む



プラグの向きを確認して差し込んでください。


2 ケーブルのもう一方のプラグをi.LINK対応機器に差し込む


4章

周辺機器を使って機能を広げよう


2 取りはずし

1 i.LINK対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の「ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す」アイコン () をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないi.LINK対応機器は、次の手順は必要ありません。
手順 **2** に進んでください。



- ② 表示されたメニューから [(取りはずしi.LINK対応機器) の取り出し] をクリックする
- ③ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、  をクリックする

2 パソコン本体とi.LINK対応機器に差し込んであるi.LINKケーブルを抜く

4 章

5 マイクロホンやヘッドホンを使う

本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。
マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

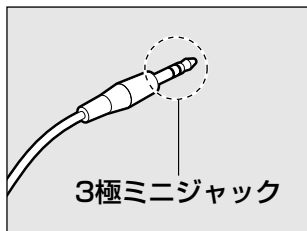
1 マイクロホンを使う

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品にはサウンド機能が搭載されています。パソコン上で録音するときの音量を調整できます。

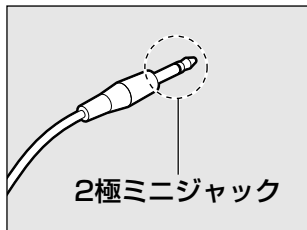
参照 サウンド機能について「2章 8 サウンド」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。

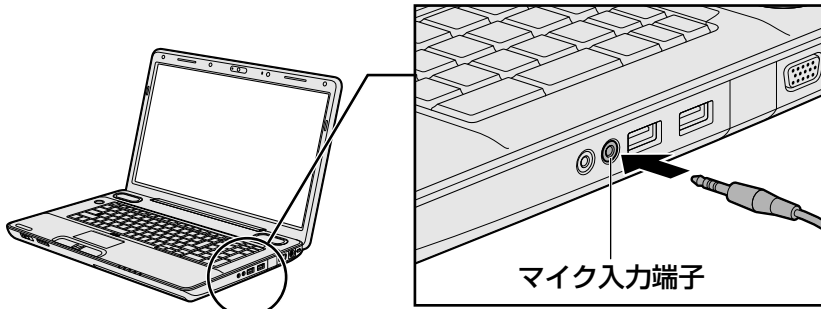


- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続する





1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



3 パソコン上で録音するときの音量調整

接続したマイクから録音をする際の音量を調整できます。

設定方法

- 1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ ハードウェアとサウンド] → [ SmartAudio] をクリックする
[SMARTAudio] 画面が表示されます。
- 3 [マイク] のつまみで音量を調整する
- 4 [閉じる] ボタン () をクリックする

4 取りはずし

- 1 マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜く

2 ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1**-**7**-ヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

本製品にはサウンド機能が搭載されています。

ヘッドホンの音量は音量ボタン、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

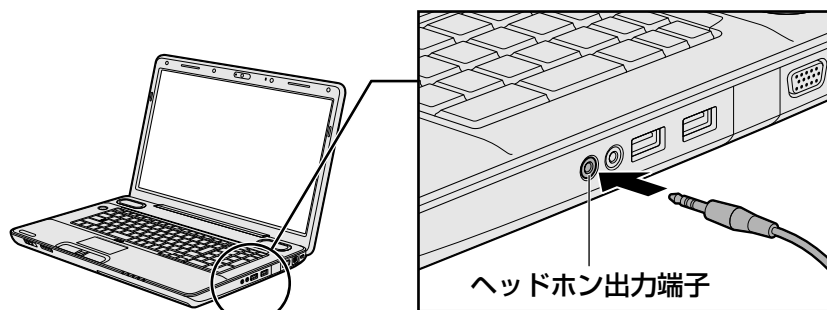
参照▶ 音量の調節「2章 **8** サウンド」

本製品のヘッドホン出力端子は、光デジタルオーディオ出力端子を兼ねています。

参照▶ 「本章 **6** 光デジタル対応機器の接続」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



2 取りはずし

1 ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜く

6

光デジタル対応機器*の接続

* 光デジタルオーディオ出力端子対応機器

次のような機器（光デジタル対応機器とよびます）を、光デジタルオーディオ出力端子に接続して使用できます。

- MDレコーダー
- MDコンボ
- AVアンプ
- ホームシアターシステム
- マルチチャンネルスピーカー など

本製品の光デジタルオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子を兼ねています。

参照 ▶ 「本章 **5** - **2**」 ヘッドホンを使う」

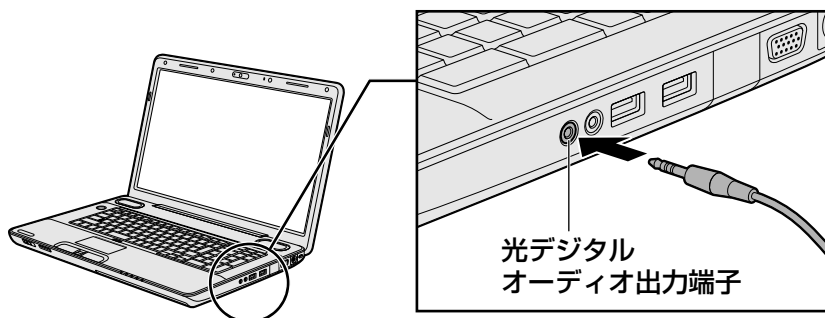
お願い

光デジタル対応機器の接続にあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **7** - 光デジタル対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 光デジタル対応機器の取り付け

- 1 デジタルオーディオケーブルのプラグをパソコン本体の光デジタルオーディオ出力端子に差し込む



- 2 デジタルオーディオケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

接続した光デジタル対応機器から音声を出すには、設定変更が必要です。操作方法は、「本節

3 光デジタル対応機器への再生」を参照してください。

2 光デジタル対応機器の取りはずし

1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

スピーカーから音声を出すには、設定変更が必要です。操作方法は、「本節 **3** 光デジタル対応機器への再生」のメモを参照してください。

3 光デジタル対応機器への再生



光デジタルオーディオ出力端子に接続した光デジタル対応機器（AVアンプ、ホームシアターシステム、マルチチャンネルスピーカーなど）から音声を出す方法について説明します。

4 章

周辺機器を使って機能を広げよう

設定方法

1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ ハードウェアとサウンド] → [ SmartAudio] をクリックする
[SMARTAudio] 画面が表示されます。

3 [SPDIF インターフェイス] アイコンをクリックする
音声の出力先が、光デジタル対応機器に切り替わります。
この場合、パソコン本体のスピーカーから音声は出力されません。

4 光デジタル対応機器の電源を入れる

5 [SMARTAudio] 画面の [SPDIF インターフェイス] のつまみで音量を調整する

6 光デジタル対応機器の音量などを調整する
光デジタル対応機器側で、S/PDIF入力からの音声をモニター・再生できるように設定してください。詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。

7 再生したい音楽などをパソコンで再生する
コンテンツの種類に対応した再生が行われます。

メモ

- 光デジタル対応機器をはずしたときに、パソコン本体から音声が出力されない場合は、手順 **3** で [スピーカー] アイコンをクリックし、スピーカーからの出力に戻してください。

目的に合わせたExpressCardを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

1 ExpressCardを使う前に

本製品は、ExpressCard Standard準拠のExpressCard/34、ExpressCard/54対応のカードを使用できます。

ExpressCardは基本的に電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用しているExpressCardがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『ExpressCardに付属の説明書』を確認してください。

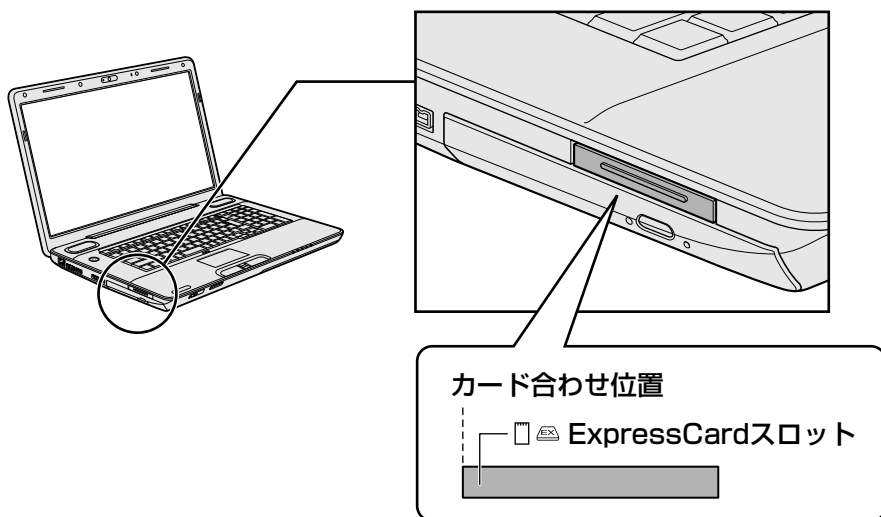
お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - ExpressCardの操作にあたって」を確認してください。

2 ExpressCardを使う

ExpressCardを使う場合、パソコン本体のExpressCardスロットにExpressCardを取り付けてください。

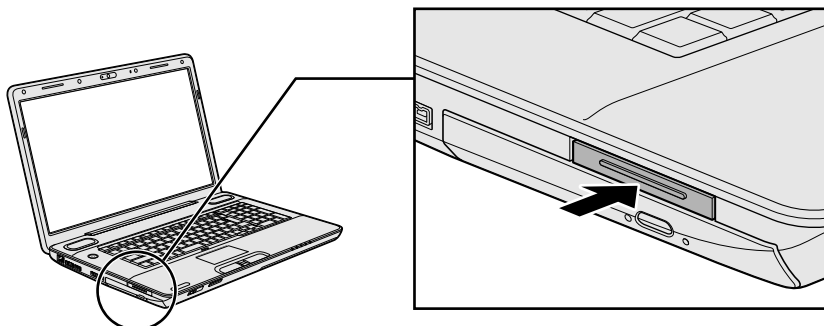
ExpressCardを取り付けるときは、ExpressCardスロットの左端にExpressCardの左端を合わせて挿入してください。



1 取り付け

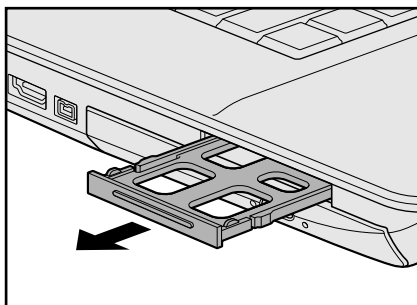
1 ケーブルの接続が必要な場合は、ExpressCardにケーブルを付ける

2 ダミーカードを押す



ダミーカードが少し出てきます。

3 ダミーカードを抜く

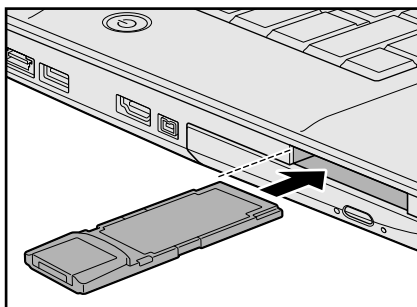


ダミーカードはなくさないように保管してください。

4 ExpressCardの表裏を確認し、表を上にして挿入する

カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、ExpressCardを使用できない、またはExpressCardが壊れる場合があります。


カードを接続したあと、カードが使用できるように設定されているか確認してください。




* イラストは、ExpressCard/34対応のカードの例です。


2 取りはずし

1 ExpressCardの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す] アイコン () をクリックする

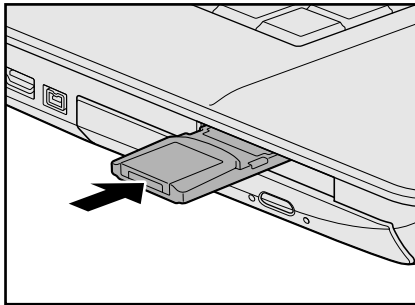
* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないExpressCardは、次の手順は必要ありません。
手順 **2** に進んでください。



- ② 表示されたメニューから [(取りはずすExpressCard) の取り出し] をクリックする
③ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、  をクリックする

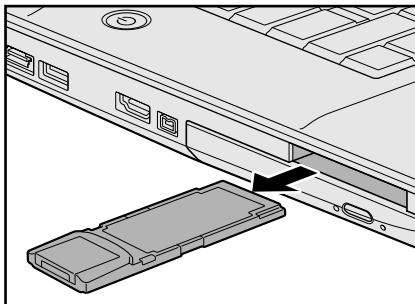
2 カードを押す

カードが少し出てきます。



3 カードをしっかりとつかみ、抜く

カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。



4 ダミーカードを挿入する

8

テレビの接続

本製品とテレビを^{エイチディーエムアイ}HDMIケーブルで接続すると、テレビ画面にWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

HDMI出力端子は、音声もテレビに出力することができます。

■ パソコン上で再生中のDVD／ブルーレイディスクを、テレビに表示する

「TOSHIBA DVD PLAYER」でのDVD再生や「WinDVD BD for TOSHIBA」でのブルーレイディスク再生など、パソコンで視聴／再生している映像を、ご家庭のテレビにも表示させることができます。

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコン本体と、テレビを接続する

参照▶「本節 1 パソコンに接続する」



パソコンの画面をテレビに表示する設定をする

参照▶「本節 2 表示を切り替える」



お願い テレビ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

メモ

- 本製品のHDMI出力端子には、テレビの代わりに、DVI端子のある外部ディスプレイを接続して表示することもできます。市販のケーブルを使用して接続してください。詳しくは、「本章 9 外部ディスプレイの接続」を参照してください。

■ 接続の前に

テレビを接続するときは、『テレビに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。

HDMI入力端子があるテレビを接続できます。

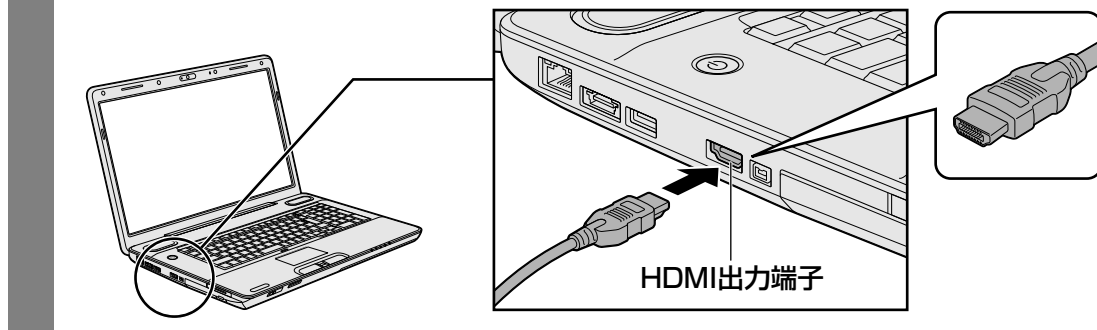
接続するHDMIケーブルは、市販のものを使用してください。

メモ

- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（**HDMI**）の表示があるケーブルをご使用ください。
- テレビへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 表示を切り替える」を参照してください。
- RGBコネクタを備えたテレビへは、外部ディスプレイのようにRGBケーブルを使って表示することもできます。詳しくは、『テレビに付属の取扱説明書』と、「本章 9 外部ディスプレイの接続」を参照してください。

1 パソコンに接続する





- 1 HDMIケーブルのプラグをテレビのHDMI入力端子に差し込む
- 2 テレビの電源を入れる
- 3 HDMIケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のHDMI出力端子に差し込む



- HDMI接続で、テレビに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

□ 音声の出力をパソコン本体のスピーカーからテレビに切り替える

HDMIケーブルで接続したテレビから音声が出ない場合は、次の設定を行ってください。

- 1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ ハードウェアとサウンド] → [ SmartAudio] をクリックする
[SMARTAudio] 画面が表示されます。
- 3 [HDMI] アイコンをクリックする
- 4 [閉じる] ボタン () をクリックする

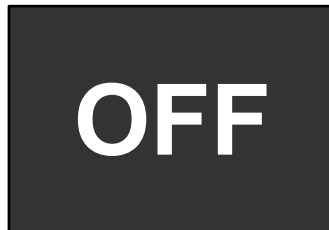
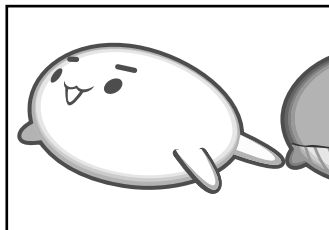
この設定を行うと、パソコン本体から音声が出られなくなります。パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順 **3** で [スピーカー] アイコンをクリックしてください。

2 表示を切り替える

テレビを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切替えを行うことで変更できます。

■ 本体液晶ディスプレイだけに表示／テレビだけに表示

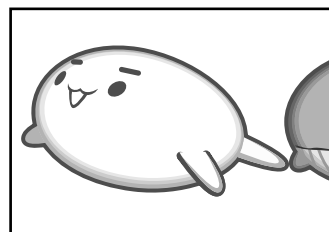
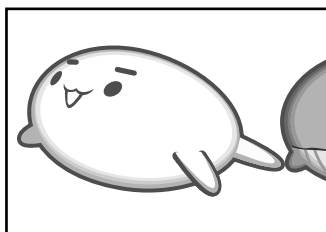
いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。



■ 本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

● クローン表示

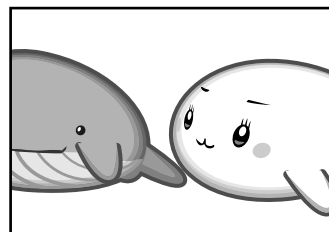
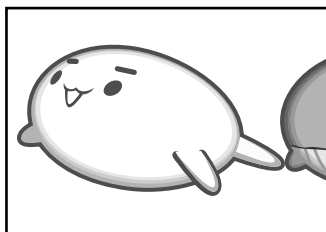
2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。



● デュアルビュー（拡張）表示*

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。

*デュアルビュー（拡張）表示は、「Extended Desktop」と表示されることがあります。



テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

メモ

- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度を変更される場合があります。本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」で使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。起動中は、表示装置を切り替えることができません。
- 「電源オプション」で表示自動停止機能を設定してテレビの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

1 表示装置を選択する

FNキーを押したまま**F5**キーを押すと、「TOSHIBA Flash Cards」の表示装置を選択する画面が表示されます。



* 画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）に表示した場合のカードです。



* アイコンの一覧です。実際は接続している表示装置に応じて切替え可能なパターンのみ表示されます。

上のカードは現在の表示装置を、下のアイコンは切替え可能なパターンを示しています。

FNキーを押したまま**F5**キーを押すたびに、大きなアイコンが移動します。表示する装置が大きなアイコンに変わったところで、**FN**キーをはなすと表示装置が切り替わります。

アイコンは、左から次の意味を表しています。


- LCD.....本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD+CRT本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイにクローン表示
- CRT.....外部ディスプレイだけに表示
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD+HDMI.....本体液晶ディスプレイとテレビにクローン表示
- HDMIテレビだけに表示
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- HDMI +CRTテレビと外部ディスプレイにクローン表示
- LCD+CRT Extended Desktop本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイにデュアルビュー（拡張）表示
本体液晶ディスプレイがプライマリモニターになります。
- LCD+HDMI Extended Desktop本体液晶ディスプレイとテレビにデュアルビュー（拡張）表示
本体液晶ディスプレイがプライマリモニターになります。
- HDMI+CRT Extended Desktopテレビと外部ディスプレイにデュアルビュー（拡張）表示
テレビがプライマリモニターになります。



メモ

- 表示装置をテレビに切り替えるときは、必要に応じて「本項 **2** 信号またはHDフォーマットを選択する」の設定を行ってください。

□デュアルビュー（拡張）表示でプライマリモニターを切り替える方法

現在の表示装置がデュアルビュー（Extended Desktop）表示に設定されている場合、プライマリモニター、セカンダリモニターを切り替えるアイコン（)が表示されます。



* 画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）とテレビに表示した場合のカードです。



（表示例）

4章

周辺機器を使って機能を広げよう



□表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法

現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、**FN**+**F5**キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、**FN**+**F5**キーを3秒以上押し続けてください。

2 信号またはHDフォーマットを選択する

接続した機器に合わせて信号フォーマットを設定したい場合は、コントロールパネルを使用します。必要に応じて設定を行ってください。

- 1 [スタート] ボタン（) → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 画面右上の[表示方法]で「大きいアイコン」または「小さいアイコン」をクリックする
- 3 [ NVIDIAコントロールパネル] をクリックする
初めてクリックしたときは、[NVIDIAコントロールパネル ビューの選択] 画面が表示されます。
[標準設定] をチェックして、[OK] ボタンをクリックしてください。
[プレビューによるイメージ設定の調整] 画面が表示されます。
- 4 [タスクの選択] で [ビデオとTV] の [信号またはHDフォーマットの変更] をクリックする

5 [3.使用する信号フォーマットを選択します。] で選択する

接続した機器の信号フォーマットに合わせて、一覧から選択します。

国名/地域	信号形式	設定される画面モード
いずれでも	480p	720×480, True Color (32ビット)
	576p	720×576, True Color (32ビット)
	720p	1280×720, True Color (32ビット)
	1080i	1920×1080, True Color (32ビット)
	1080p	1920×1080, True Color (32ビット)

* 選択可能な信号形式は接続されているHDMI機器によって異なります。

* [複数のディスプレイの設定] 画面の [2.使用するディスプレイを選択します。] で [デジタルフラットパネル+HDMI] のクローン表示を選択している場合は、この項目は表示されません。クローンモードで使用する信号フォーマットを変更する場合は [HDMI+デジタルフラットパネル] を選択してください。

6 [適用] ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して [はい] ボタンをクリックしてください。

3 レグザリンクを使う

1 レグザリンクとは

レグザリンクを使うと、東芝製液晶テレビ「レグザ*1」に接続している外部機器を、レグザに付属のリモコンで操作することができます。

*1 レグザリンクに対応しているレグザのみ



メモ

- レグザリンクについては、『レグザに付属の取扱説明書』と「付録 **1** - **14** レグザリンクについて」をよくお読みください。
- レグザリンクに対応している機種の詳細情報は、次のホームページで確認してください。
URL : <http://www.toshiba.co.jp/digital/regzalink/>

本製品で使用できる機能について

レグザが対応している外部機器との接続方法は、HDMI、ネットワーク（LAN）、USBの3種類あります。

参照 対応している外部機器『レグザに付属の取扱説明書』

本製品では、HDMIケーブルを使った接続によるレグザリンク（HDMI連動）により、次のアプリケーションをレグザに付属のリモコンで操作して、映像を再生することができます。

- TOSHIBA DVD PLAYER
- TOSHIBA Net Movie Player
- Windows Media Center
- WinDVD BD for TOSHIBA

各アプリケーションの操作方法については、本書の説明や各ヘルプを参照してください。

レグザのリモコンの操作方法については、『レグザに付属の取扱説明書』を参照してください。ここでは、レグザリンクを使った操作方法を紹介します。

2 レグザリンクの操作方法

レグザリンクを使うには、次のようにパソコン本体とレグザを設定してください。

① パソコン本体とレグザリンクに対応したレグザをHDMIケーブルで接続する

参照 HDMIケーブルでの接続方法について

『レグザに付属の取扱説明書』「本節 ① パソコンに接続する」

② 接続したレグザの主電源を入れる


接続したレグザの主電源を切っていると、レグザリンクが使いません。

必ず、レグザの主電源を入れてください。

③ パソコン本体の電源を入れる

④ デスクトップ上の [HDMI出力] アイコン () をダブルクリックする


レグザの電源がオンになり、パソコンのデスクトップ画面がテレビに表示されます。

すでに「TOSHIBA Flash Cards」などで表示装置を「HDMI」に設定している場合は、手順④の操作を行うと、本体液晶ディスプレイにだけ表示する設定に戻ります。再度、デスクトップ上の [HDMI出力] アイコン () をダブルクリックするか、**FN** + **F5** キーを押して、表示装置を切り替えてください。

4 パソコンから取りはずす

1 パソコン本体とテレビに差し込んであるケーブルを抜く

メモ

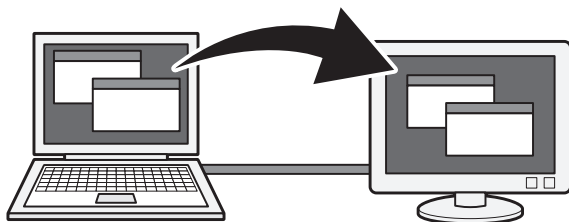
- HDMI出力端子からテレビをはずしたときに、パソコン本体から音声が出力されない場合は、パソコン本体からの音声出力に切り替えてください。
 - ① [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
 - ② [ハードウェアとサウンド] → [SmartAudio] をクリックする
 - ③ [スピーカー] アイコンをクリックする
 - ④ [閉じる] ボタンをクリックする

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

本製品の次のコネクタと外部ディスプレイをケーブルで接続すると、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

- エイチディーエムアイ HDMI 出力端子
- アールジービー RGBコネクタ



お願い 外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1-7** - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

■ 接続の前に

外部ディスプレイを接続するときは、『外部ディスプレイに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。

- **HDMI 出力端子で接続する場合**
HDMI 端子がある外部ディスプレイまたはDVI端子がある外部ディスプレイを接続できます。
DVI端子がある外部ディスプレイを接続する場合は、市販のHDMI↔DVI変換ケーブルをご使用ください。
DVI端子に接続した場合、音声を出力することはできません。
- **RGBコネクタで接続する場合**
RGB端子がある外部ディスプレイを接続できます。

メモ

- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（**HDMI**）の表示があるケーブルをご使用ください。
- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。
解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。
- 著作権保護された映像などを外部ディスプレイに表示するためには、HDCPIに対応した外部ディスプレイを接続してください。

1 パソコンに接続する

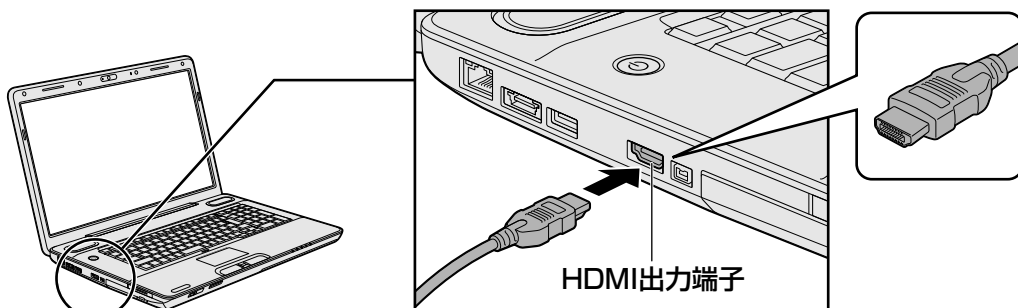
HDMI出力端子に接続する

ここでは、DVI端子がある外部ディスプレイを接続する方法を説明します。

HDMI端子がある外部ディスプレイを接続する方法は、テレビを接続する方法を参考にしてください。

参照 ▶ テレビの接続「本章 3 - 1 パソコンに接続する」

- 1 HDMI↔DVI変換ケーブルのDVIプラグを外部ディスプレイのDVI端子に差し込む
- 2 外部ディスプレイの電源を入れる
- 3 HDMI↔DVI変換ケーブルのHDMIプラグをパソコン本体のHDMI出力端子に差し込む



4 章

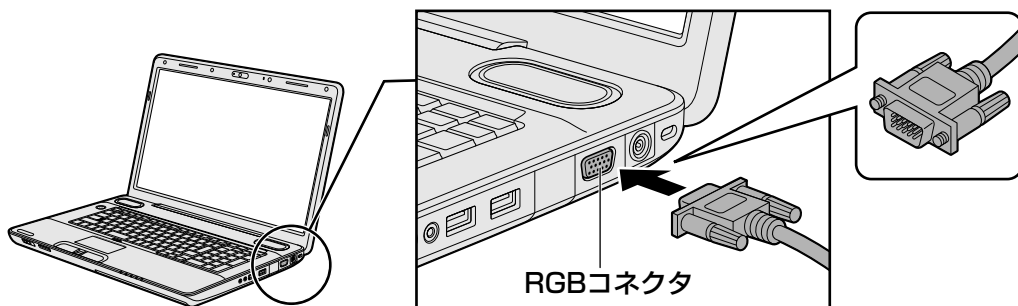
周辺機器を使って機能を広げよう

RGBコネクタに接続する

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

本製品のRGBコネクタには固定用のネジ穴はありませんが、プラグに固定用のネジが付いているタイプの外部ディスプレイケーブルも使用できます。



2 外部ディスプレイの電源を入れる

3 パソコン本体の電源を入れる

上の手順で電源を入れると、パソコン本体は自動的に外部ディスプレイを認識します。

2 パソコンから取りはずす

HDMI 出力端子から取りはずす

1 HDMI 出力端子からケーブルを抜く



- HDMI 接続で、外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

RGBコネクタから取りはずす

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で取りはずしてください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 ▶ 電源の切りかた『セットアップガイド』

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGBコネクタからケーブルを抜く

3 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
 - ・ クローン表示
 - ・ デュアルビュー（拡張）
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

表示方法は、テレビに表示する場合の説明を参考にしてください。

参照▶ 表示方法について「本章 8 - 2 表示を切り替える」

切替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の方法を参考にしてください。

参照▶ 表示方法について「本章 8 - 2 表示を切り替える」



メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定にあった色数／解像度で表示されます。

4 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

5 章

■ バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

- 1 バッテリーについて 102
- 2 省電力の設定をする 107

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプターを接続してバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があります。人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意ください。『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

5章

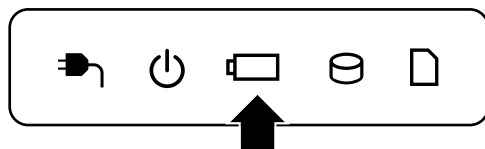
バッテリー駆動で使う

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケータで確認する


ACアダプターを使用している場合、Battery LEDが点灯します。




Battery LEDは次の状態を示しています。


赤	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 ▶ バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」
消灯	・ ACアダプターが接続されていない ・ バッテリーが接続されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性 があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の [バッテリー] アイコンで確認する

通知領域の [バッテリー] アイコン () の上にポインターを置くと、バッテリー充電量が表示されます。


[バッテリー] アイコン () をクリックすると、電源プランなども表示されます。



1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LEDや [バッテリー] アイコンで充電量の減少が表示されることがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery  LEDがオレンジ色に点滅する (バッテリーの残量が少ないことを示しています)
- バッテリーのアラームが動作する


「電源オプション」で [プラン設定の変更] → [詳細な電源設定の変更] をクリックして表示される [詳細設定] タブの [バッテリー] → [バッテリー低下の通知] や [バッテリー切れの操作] で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

参照▶ 省電力設定 (電源オプション) について「本章 **2** 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体にACアダプターを接続し、充電する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプターを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

■ 充電完了までの時間

時計用バッテリーは電源ON（Power LEDが赤色に点灯）の状態にしておくと、約24時間で充電が完了します。

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

5章

バッテリー駆動で使う

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 - バッテリーを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN ➡ LEDが赤色に点灯してBattery □ LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON/OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery □ LEDが赤色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery □ LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN ➡ LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプター、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。

詳細は、別紙の『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■ バッテリー駆動時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

詳細は、別紙の『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■ バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア (3Dグラフィックス使用など) を使用する場合は、十分な性能を発揮するためにACアダプターを接続してご使用ください。

■ 使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。

バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

保持時間は、充電完了の状態電源を切った場合の目安にしてください。

詳細は、別紙の『dynabook * * * * (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッドスリープにすることをおすすめします。

参照 ▶ ハイブリッドスリープについて『セットアップガイド』

2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を比較的遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を比較的遅くすることができます。

- パソコンとACアダプターをコンセントに接続したままの状態、パソコンを長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもにACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの劣化を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

5章

バッテリー駆動で使う

バッテリー充電量を節約する方法

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする
参照▶ 「2章 2-2 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
参照▶ 「2章 2-3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力の電源プランを設定する
参照▶ 「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリーパックを保管する

バッテリーパックを保管するときは、次の説明をお読みください。

また、『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』にも、バッテリーパックを保管するときの重要事項が記述されています。あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

- 充電状態の電池を放置しておくとも電池が劣化し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この劣化は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリーパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。

これらの電源設定を電源プランといいます。

「電源オプション」では、使用環境にあわせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。

購入時には、次の電源プランが用意されています。

● バランス

必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。

● eco

東芝の推奨する設定により、消費電力を抑えます。

参照▶「本項 **1** - 役立つ操作集 - 東芝ecoユーティリティ」

● Intervideo WinDVD

ハードウェアでサポートされている場合に、自動的にパフォーマンスと電力消費のバランスを取ります。


● 省電力

パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力を抑えます。

バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常より長くもちます。

● 高パフォーマンス



パフォーマンスと応答速度を最大にします。バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されます。

* 「Intervideo WinDVD」、「省電力」、「高パフォーマンス」は [追加のプランを表示します] の  をクリックすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。詳しくは、「電源オプション」のヘルプをご覧ください。

1 起動方法

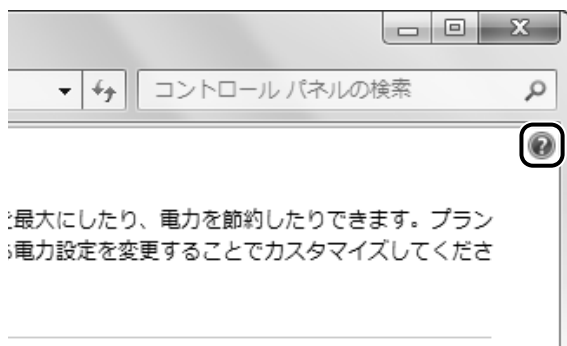
1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ システムとセキュリティ] → [ 電源オプション] をクリックする

「電源オプション」が起動します。

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の  ボタンをクリックする



2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする

該当するページが表示されます。

5章

バッテリー駆動で使う



役立つ操作集


東芝ecoユーティリティ

* 東芝ecoユーティリティ搭載モデルのみ


東芝の推奨する設定により、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力を抑えます。

詳しくは、「東芝ecoユーティリティ」のヘルプをご覧ください。

● 起動方法

① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [ecoユーティリティ] をクリックする

初回起動時は、[はじめにお読みください] 画面が表示されますので、[同意する] をチェックし、[OK] ボタンをクリックしてください。

[TOSHIBA ecoユーティリティ] 画面が表示され、通知領域にアイコン () が表示されます。

● ヘルプの起動方法

① [TOSHIBA ecoユーティリティ] 画面で [ヘルプ] ボタンをクリックする
「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

6章

システム環境の変更


本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境やパスワードセキュリティを設定する方法について説明しています。

- 1 東芝HWセットアップ..... 110
- 2 パスワードセキュリティ..... 111
- 3 指紋認証を使う..... 121

1 東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。
複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

起動方法

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HWセットアップ] をクリックする

[東芝HWセットアップ] 画面が表示されます。

2 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

ヘルプの起動方法

1 [東芝HWセットアップ] 画面上で、知りたい項目にポインターを置く

項目に対するヘルプが表示されます。

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の3種類があります。

- **Windowsのログオンパスワード**
 - ・ Windowsにログオンするとき
 - ・ パスワード保護の設定をしたスクリーンセーバーを解除するとき
- **ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード**
 - ・ 電源を入れたときや休止状態から復帰するときユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。
- **HDDパスワード**
 - ・ ハードディスクを起動するとき

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PCあんしんサポートに依頼してください。
パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は有償です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。


使用できる文字	アルファベット (半角)	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部 (半角)	- = [] ; ' , . / ` & ~ (スペース) など
使用できない文字	・ 全角文字 (2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など ・ 記号の一部 (半角) 【例】 (バーチカルライン) ¥ (エン) など	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう1度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード

「東芝HWセットアップ」でユーザーパスワードの設定や設定の変更ができます。
ユーザーパスワードは、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューでも設定できますが、「東芝HWセットアップ」で設定することをおすすめします。

1 ユーザーパスワードの登録

- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HWセットアップ] をクリックする
[東芝HWセットアップ] 画面が表示されます。
- 2 [パスワード] タブで [ユーザーパスワード] の [登録] をチェックする
パスワードを入力する画面が表示されます。

3 [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードは8文字以内で入力できます。

参照▶ パスワードに使用できる文字「本節-パスワードとして使用できる文字」

パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

4 [パスワードの確認] に手順 **3** で入力したパスワードをもう1度入力し、[OK] ボタンをクリックする**5** 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードが登録されます。




メモ

パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

2 ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HWセットアップ] をクリックする**2** [パスワード] タブで [ユーザーパスワード] の [未登録] をチェックする
パスワードを入力する画面が表示されます。**3** [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

パスワードの入力エラーの場合は、もう1度手順 **2** から操作を行ってください。

入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度手順 **1** から削除の操作を行ってください。

4 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする**3 ユーザーパスワードの変更**

ユーザーパスワードを変更したい場合は、ユーザーパスワードを削除してから、新たに登録してください。

2 スーパーバイザーパスワード


「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。

スーパーバイザーパスワードは、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューでも設定できますが、「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」で設定することをおすすめします。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うものを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。


1 起動方法

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする

2 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Utilities¥SVPWUTIL.exe」と入力する

3 [OK] ボタンをクリックする
詳しくは、「README.HTM」を参照してください。

2 「README.HTM」の起動方法

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする

2 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Utilities¥README.HTM」と入力する

3 [OK] ボタンをクリックする


3 パスワードの入力

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードが設定されている場合、パソコンまたはBIOSセットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。

この場合は、次の手順を行ってパソコンまたはBIOSセットアップを起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

NUM LOCK  LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。パスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

1 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDDパスワード

* この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。

HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有償での交換となります。ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社は一切責任を負いません。HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの2つを設定することが可能です。

■HDDユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。

HDDマスターパスワードを削除すると、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。

■HDDマスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。

HDDマスターパスワードはHDDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDDマスターパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。

なお、HDDマスターパスワードのみを登録することはできません。

HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、HDDユーザーパスワードの設定を例に説明しています。

6章

システム環境の変更

3 HDDパスワードの登録

HDDマスターパスワードの項目は、BIOSセットアップの「HDD1/SSD1のパスワードモード」が「マスター+ユーザー」の場合のみ表示されます。

「マスター+ユーザー」の場合は、HDDマスターパスワードを設定し、続けてHDDユーザーパスワードの設定を行います。

1 電源スイッチを押し、[Qosmio] 画面が表示されている間に[F2]キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

パスワードを入力して[ENTER]キーを押してください。

2 [セキュリティ] メニューを表示する

3 カーソルバーを [HDD1/SSD1のパスワードモード] の下にある [HDD1/SSD1のユーザーパスワードの設定] の [Enter] に合わせ、[ENTER] キーを押す

カーソルが「新しいパスワードを入力して下さい。」に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは8字以内で入力します。

参照 ユーザーパスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに [■] が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 **ENTER** キーを押す

カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」に移動します。

6 パスワードを入力する

確認のため、手順 **4** と同じパスワードをもう1度入力してください。

7 **ENTER** キーを押す

[セットアップ通知] 画面が表示されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。**ENTER** キーを押して、手順 **4** からやり直してください。

8 **ENTER** キーを押す

パスワードが設定され、[HDD1/SSD1のパスワード] に「設定」と表示されます。

9 [終了] メニューでカーソルバーを [変更を保存して終了する] に合わせ、

ENTER キーを押す

確認の画面が表示されます。

10 カーソルバーを [はい] に合わせ、 **ENTER** キーを押してBIOSセットアップを終了する

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

6 章

システム環境の変更

4 HDDパスワードの削除

1 電源スイッチを押し、[Qosmio] 画面が表示されている間に **F2** キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。

2 [セキュリティ] メニューを表示する

- 3** カーソルバーを [HDD1/SSD1のパスワードモード] の下にある [HDD1/SSD1のユーザーパスワードの設定] の [Enter] に合わせ、**ENTER** キーを押す

カーソルが「現在のパスワードを入力して下さい。」に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

- 4** 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに [■] が表示されます。

- 5** **ENTER** キーを押す

カーソルが「新しいパスワードを入力して下さい。」に移動します。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。**ENTER** キーを押して、手順 **4** からやり直してください。

- 6** **ENTER** キーを押す

ここでは何も入力しません。カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」に移動します。

- 7** **ENTER** キーを押す

ここでは何も入力しません。[セットアップ通知] 画面が表示されます。

- 8** **ENTER** キーを押す

パスワードが削除され、[HDD1/SSD1のパスワード] に「クリア」と表示されます。

- 9** [終了] メニューでカーソルバーを [変更を保存して終了する] に合わせ、**ENTER** キーを押す

確認の画面が表示されます。

- 10** カーソルバーを [はい] に合わせ、**ENTER** キーを押してBIOSセットアップを終了する

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

[HDD1/SSD1のパスワードモード] で [マスター+ユーザー] を選択した場合は、HDDマスターパスワードの削除を行うと、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。HDDユーザーパスワードのみを削除することはできません。

5 HDDパスワードの変更

1 電源スイッチを押し、[Qosmio] 画面が表示されている間に **F2** キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。

2 [セキュリティ] メニューを表示する

3 カーソルバーを [HDD1/SSD1のパスワードモード] の下にある [HDD1/SSD1のユーザーパスワードの設定] の **Enter** に合わせ、**ENTER** キーを押す

カーソルが「現在のパスワードを入力して下さい。」に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに **■** が表示されます。

5 **ENTER** キーを押す

カーソルが「新しいパスワードを入力して下さい。」に移動します。

手順 **4** で入力したパスワードが正しくない場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。**ENTER** キーを押して、手順 **4** からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

パスワードは1文字ごとに **■** が表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」に移動します。

7 手順 **6** で入力したパスワードをもう1度入力し、**ENTER** キーを押す

[セットアップ通知] 画面が表示されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、[セットアップ警告] 画面が表示されます。**ENTER** キーを押して、手順 **6** からやり直してください。

8 **ENTER** キーを押す

新しいパスワードが登録され、[HDD1/SSD1のパスワード] に「設定」と表示されます。

- 9** [終了] メニューでカーソルバーを [変更を保存して終了する] に合わせ、
[ENTER] キーを押す

確認の画面が表示されます。

- 10** カーソルバーを [はい] に合わせ、 [ENTER] キーを押してBIOSセットアップを終了する


設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れると「Enter HDD 1 Password」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

- 1** 設定したとおりにHDDパスワードを入力し、 [ENTER] キーを押す

NUM LOCK  LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

HDDパスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

メモ

- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

本製品には「指紋センサー」と「指紋認証ユーティリティ（東芝フィンガープリントユーティリティ）」が用意されています。ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサー上にすべらせるだけで、次のことが実行できます。

- Windows ログオン
- インターネットのホームページで、パスワードの入力
- スクリーンセーバーの解除
- パソコン本体起動時のユーザーパスワードまたはHDDパスワードの入力
- スリープからの復帰
- ファイルやフォルダーの暗号化


詳しくは「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。
ヘルプの起動方法は、本節の最後で説明しています。

お願い 指紋認証の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 **1** - **15** 指紋認証について」を確認してください。

2 Windowsログオンパスワードを設定する

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、「Windows ログオンパスワード」を設定する必要があります。

Windowsログオンパスワードを設定していない場合は、[コントロールパネル] の [ ユーザー アカウントと家族のための安全設定] で設定することができます。

参照 ▶ Windowsログオンパスワードの設定方法
『Windowsヘルプとサポート』

すでにWindowsログオンパスワードを設定してある場合は、「本節 **3** 指紋を登録する」に進んでください。

3 指紋を登録する

「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、2本以上の指を登録してください。

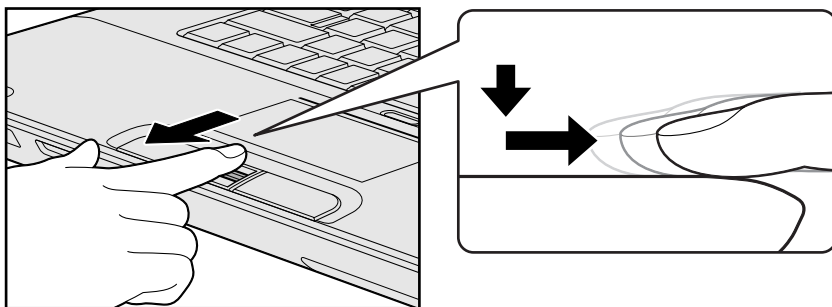
指紋センサーには、最大20パターンの指紋を登録することができます。複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、全ユーザー合わせて20パターンまで登録できます。たとえば、1人で10パターンの指紋を登録した場合、ほかのユーザーが登録できるのは残り10パターンです。

指紋センサーに指紋をうまく読み取らせるには

1 指紋センサーに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、第1関節を軽く指紋センサー中央の上におく

2 第1関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサーに触れるように手前に水平に引く


指先だけ指紋センサーにのせると、指紋が認識されない場合があります。第1関節から先端にかけて指のはらの部分が指紋センサーに触れるように、ゆっくりとすべらせてください。



1 操作方法

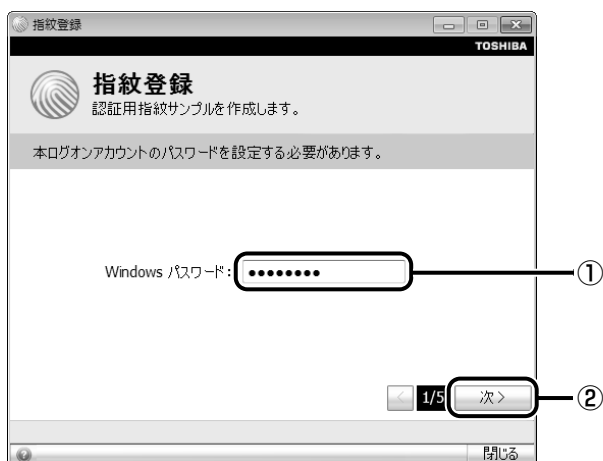
「指紋認証ユーティリティ」でユーザー登録を行います。ユーザー登録では、Windowsのユーザーアカウントとそのログオンパスワードを登録したあと、そのユーザーアカウントでログオンし、認証で使用する指（指紋）を登録します。

1 指紋を登録するユーザーアカウントでログオンする

2 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [TOSHIBA Fingerprint Utility] をクリックする

[指紋登録] 画面が表示されます。

3 [Windowsパスワード] にWindowsログオンパスワードを入力し①、 [次] ボタンをクリックする②

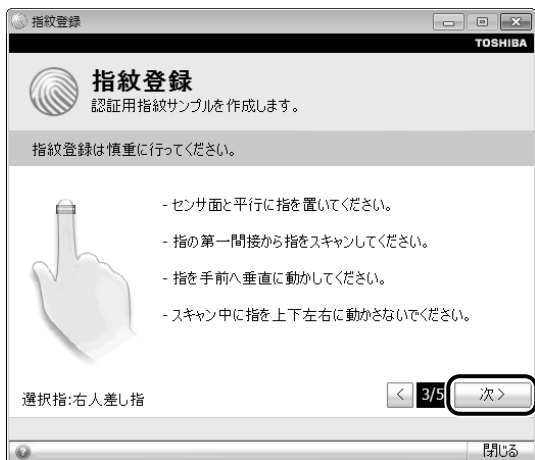


4 指紋を登録する指の上の○印をクリックし①、[次] ボタンをクリックする②

体勢によっては親指での認証は難しいので、親指以外の指を登録することおすすめします。

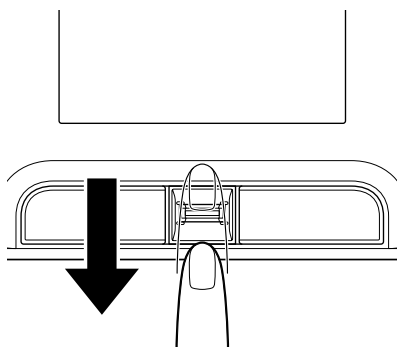


5 画面に表示される説明をよく見て、[次] ボタンをクリックする



6 指紋登録の練習のために、指紋センサーに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

第1関節を指紋センサーの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。このとき、タッチパッドに触れないように気をつけてください。



同じ指を3回認識させてください。指紋センサーに指をすべらせると、画面の3つのボックスに、1回ごとの指紋データの読み取り結果が表示されます。読み取りに成功すると、ボックスの下に「良いイメージ」と表示されます。



3回成功するまで繰り返し認識させてください。

* [スキップ] ボタンをクリックすると、指紋登録の練習をスキップすることができます。

7 3回成功したら、[次] ボタンをクリックする



8 指紋登録のために、指紋センサーに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

手順 6 で練習した要領で、第1関節を指紋センサーの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。

ここで指紋をできるだけ精細に読み取らせることで、認証率を向上させることができます。

同じ指を3回読み取らせます。読み取りに成功すると、ボックスの下に「良いイメージ」と表示されます。

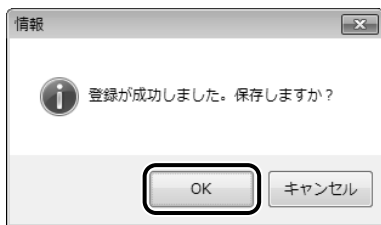


3回成功するまで繰り返し認識させてください。

3回とも指紋の読み取りに成功すると、メッセージが表示されます。

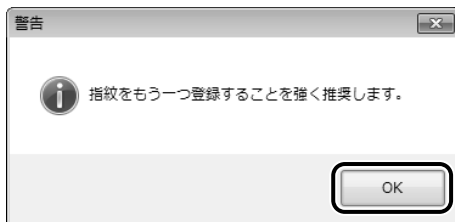
* 9回以上失敗すると、手順 4 に戻ります。

9 指紋データを保存するために [OK] ボタンをクリックする



10 メッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

指をけがしたときなどのために、1ユーザーあたり、2本以上の指紋登録をおすすめします。

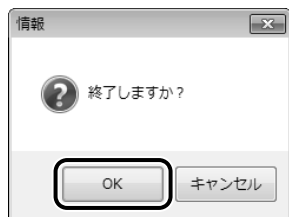


11 違う指で手順 4 → 5 → 6 → 7 → 8 → 9 を繰り返す

12 指紋登録を終了する場合は、[閉じる] ボタンをクリックする



13 メッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする



14 [閉じる] ボタンをクリックする



15 メッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

4 指紋認証を行う

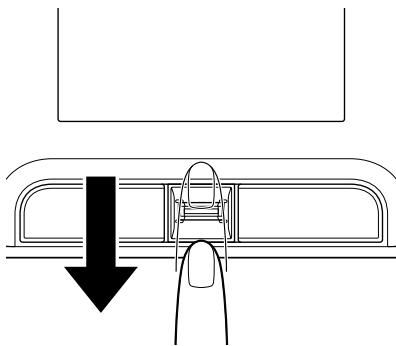
指紋を登録すると、指紋センサーに指をすべらせることで、Windowsへログオンできます。また、パソコンを複数のユーザーで使用している場合、ユーザーの選択も省略できます。

1 操作方法


1 パソコンに電源を入れる

Windowsにログオンする画面が表示されます。

2 指紋登録した指の第1関節を指紋センサーの上へのせ、手前側にすべらせる



指紋が認証されるとWindowsにログオンします。

指紋認証がうまくいかなかった場合は、指紋認証画面が表示されます。キーボードからパスワードを入力したい場合は、指紋認証画面の「閉じる」ボタン () をクリックしてください。

2 その他の使いかた

パソコンの起動や復帰時に指紋で認証させる

■ パソコンの起動時（起動認証）

パソコンの起動時に、ユーザーパスワードやHDDパスワードの代わりに、指紋認証を使用することもできます。

① ユーザーパスワードやHDDパスワードを登録する

参照 ユーザーパスワード、HDDパスワードの登録方法「本章 **2** パスワードセキュリティ」

② 「指紋認証ユーティリティ」の [設定] で設定する

[設定] メニューが無効な場合は、[管理者として実行] ボタンをクリックして管理者権限に昇格してください。

参照 設定の詳細「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ



ユーザーパスワードやHDDパスワードの指紋認証に続けて5回失敗すると、指紋認証ができなくなります。その場合は、キーボードからパスワードを入力してパソコンを起動してください。また指紋認証画面が表示されているときに、キーボードからパスワード入力をしたい場合は **BACKSPACE** キーを押してください。キーボードからのパスワード入力が可能になります。

お願い 指紋認証のパスワード入力について

- あらかじめ、「付録 **1-15** - 指紋認証のパスワード入力について」を確認してください。




■ スクリーンセーバーの解除

次のように設定します。

- ① [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] → [ デスクトップのカスタマイズ] をクリックする
- ② [スクリーンセーバーの変更] をクリックする
- ③ [再開時にログオン画面に戻る] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

■ スリープからの復帰

次のように設定します。

- ① [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] → [ システムとセキュリティ] → [ 電源オプション] をクリックする
- ② [電源プランの選択] で選択されているプランの [プラン設定の変更] をクリックする
- ③ [詳細な電源設定の変更] をクリックする
- ④ [バランス] の [復帰時のパスワードを必要とする] で、[バッテリー駆動] および [電源に接続] を [はい] に設定する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする

指紋データのバックアップをとる

登録してある指紋データをバックアップすることができます。バックアップしておくと、リカバリーしたときなどに指紋を再登録しなくても済みます。また、別のパソコンで指紋認証を使用したいときに、指紋データを登録しなくても済みます。


参照 設定の詳細「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ


パソコンを捨てるまたは人に譲る場合

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを消去することをおすすめします。

指紋の消去は、「指紋認証ユーティリティ」の「指紋情報管理」で行ってください。

ヘルプの起動方法

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [TOSHIBA Fingerprint Utility] をクリックする

2  をクリックする



7 章

■ パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

- 1 トラブルを解消するまでの流れ..... 132
- 2 Q&A集..... 134

1

トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけいきましょう。

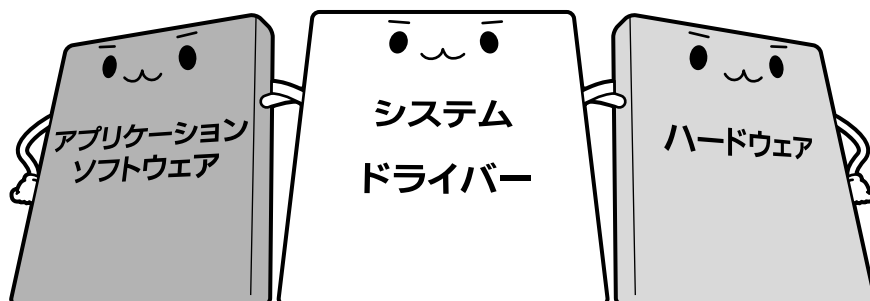
1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。

そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。

ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

■パソコンを構成する3つの部分



●アプリケーションソフトウェアとは

メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（文書作成ソフト）や Excel（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

●システム、ドライバーとは

システムは、オペレーティングシステム、OSともいい、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 7です。

ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバー、マウスドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。

●ハードウェアとは

バッテリーやACアダプターはもちろん、画面（ディスプレイ）、キーボード、バッテリー、ハードディスク、CPUなど、パソコン本体を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→パソコン本体の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 Q&Aを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
また、『セットアップガイド』などにもQ&Aが記載されているので、あわせて読んでください。

STEP2 付属のマニュアルを読む

本製品には目的別に複数のマニュアルがあります。
本書以外のマニュアルも読んでください。

STEP3 サポートのサイトで調べる

本製品独自のサポートサイト「あなたのdynabook.com」へ接続すると、各種サポート情報から解決方法を探ることができます。
「あなたのdynabook.com」では、ご利用のパソコンの「よくあるご質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
ご利用のパソコンに関する情報だけが表示されるので、目的の情報を簡単に探すことができます。また、サポート窓口や修理についても案内しています。

参照 ▶ あなたのdynabook.com『東芝PCサポートのご案内』

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は『取扱説明書』で確認してください。

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『セットアップガイド』にもQ&A集があります。目的の項目が見つからないときは、『セットアップガイド』も参照してください。

1	画面／表示	135
	Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった.....	135
	Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、 パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、 本体液晶ディスプレイに何も表示されない.....	135
	Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、 画面が表示されなくなった.....	135
	Q 画面が薄暗く、よく見えない.....	136
2	キーボード	136
	Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない.....	136
	Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう.....	136
	Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった.....	136
3	タッチ패드／マウス	137
	Q クリックしても反応がない.....	137
	Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい.....	137
	Q ポインターの速度を調節したい.....	138
	Q レーザーマウスの反応がおかしい.....	138
	Q 光学式マウスの反応がおかしい.....	138
4	指紋認証	139
	Q 指紋の読み取りがうまくいかない.....	139
	Q 指にけがをしたため指紋の読み取りができなくなった.....	139
	Q 認識率が下がったら.....	139
5	その他	140
	Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい.....	140

1 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A▶ 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

SHIFT キーや **CTRL** キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A▶ 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

FN + **F5** キーを3秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照▶ 詳細について「4章 8 - 2 - 1 表示装置を選択する」

Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A▶ テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

参照▶ 詳細について「4章 8 - 2 表示を切り替える」

Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A▶ テレビまたは外部ディスプレイを接続してください。

テレビまたは外部ディスプレイをプライマリデバイスに指定してデュアルビュー（拡張）表示の設定をした場合に、スリープや休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。

テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A **FN** + **F7** キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください*1




FN + **F6** キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。

FN キーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると設定はもとに戻ります。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

[電源オプション] には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。詳細は、[電源オプション] のヘルプを参照してください。

次の手順で設定を変更してください。*1

- ① [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- ② [ システムとセキュリティ] → [ 電源オプション] をクリックする
- ③ 利用するプランを選択し、[プラン設定の変更] をクリックする
- ④ [プランの明るさを調整] を設定する
[バッテリー駆動] と [電源に接続] をそれぞれ設定してください。
- ⑤ [変更の保存] ボタンをクリックする

*1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。


7章

パソコンの動作がおかしいときは

2 キーボード

Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形 () をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

FN + **F9** キーを押して、タッチパッドを無効に切り替えてください。

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプターとバッテリーパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

3 タッチパッド/マウス

*マウスは、モデルによって別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形 (○) をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないことがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

[FN]+[F9] キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

A USB対応のマウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定されている可能性があります。

次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。

- ① [スタート] ボタン (Windows) → [コントロールパネル] をクリックする
- ② [ハードウェアとサウンド] → [マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [デバイス設定] タブで [USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。] のチェックをはずす
- ④ [OK] ボタンをクリックする




Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

- ① [スタート] ボタン (Windows) → [コントロールパネル] をクリックする
- ② [ハードウェアとサウンド] → [マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [ボタン] タブで [ダブルクリックの速さ] のスライダーバーを左右にドラッグする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

Q ポインターの速度を調節したい

A 次の手順でポインターの速度を変更してください。

- ① [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする
- ② [ ハードウェアとサウンド] → [ マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [ポインターオプション] タブで [速度] のスライダーバーを左右にドラッグする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

Q レーザーマウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面 (ガラス、鏡など)

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

Q 光学式マウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面 (ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど)
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面 (人工大理石、新品のオフィスデスクなど)
- 画像パターンの方向性が強い表面 (正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど)

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。

光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。

光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

4 指紋認証

Q 指紋の読み取りがうまくいかない

A ➔ もう1度正しい姿勢で操作してください。

詳しい操作方法は、「6章 3 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

A ➔ 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A ➔ どうしてもうまくいかない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「6章 3 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 指にけがをしたため指紋の読み取りができなくなった

A ➔ 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A ➔ 登録したすべての指の指紋が読み取れない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「6章 3 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 認識率が下がったら

A ➔ 指紋センサーの表面がよごれていないか確認してください。

よごれている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってからもう1度指紋認証を行ってください。

参照 ➔ 詳細について「6章 3 指紋認証を使う」

A ➔ 指の状態を確認してください。

指に傷があったり、手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋登録時と状態が異なると認識できない場合があります。認識率が改善されない場合は、ほかの指で登録してください。

参照 ➔ 詳細について「6章 3 指紋認証を使う」

A▶ 指の置きかたを確認してください。

指を指紋センサーと平行になるように置き、指紋センサーに指の中央を合わせてください。指紋センサーの上に第1関節がくるように置き、すべらせるときはゆっくりと一定の速さですべらせてください。それでも認証できない場合は、指をすべらせる速さを調整してください。

参照▶ 詳細について「6章 **3** 指紋認証を使う」

5 その他**Q** パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい**A**▶ 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルターを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1	ご使用にあたってのお願い	142
2	記録メディアについて	157
3	お客様登録の手続き	163
4	技術基準適合について	165
5	各インターフェースの仕様	168
6	無線LANについて	172
7	ホームネットワークを楽しもう	185
8	OSの切替えについて	191

1

ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「1章 **1**-**2** 起動方法」を参照して、注意制限事項を確認してください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割される場合、分割されるこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大65,000ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさの約2.3倍の空き容量が、保存先の装置に必要です。


2 パソコン本体について

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

3 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- Disk  LEDが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクやCD／DVD／ブルーレイディスクなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD／DVD／ブルーレイディスクなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気プレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

4 CD/DVD/ブルーレイディスクについて

CD/DVD/ブルーレイディスクの操作にあたって

- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD/DVD/ブルーレイディスクを取り出す操作をしないでください。CD/DVD/ブルーレイディスクが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD/DVD/ブルーレイディスクが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD/DVD/ブルーレイディスクのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照▶ イジェクトホールについて

「2章 6-3」- CD/DVD/ブルーレイディスクが出てこない場合」

- ドライブのトレイを開けたときに、CD/DVD/ブルーレイディスクが回転している場合には、停止するまでCD/DVD/ブルーレイディスクに手を触れないでください。けがのおそれがあります。
- CD/DVD/ブルーレイディスクをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD/DVD/ブルーレイディスクを正しくディスクトレイにセットしないとCD/DVD/ブルーレイディスクを傷つけることがあります。
- 本製品では、8cm、12cmのCD/DVD/ブルーレイディスクのみ使用できます。これら以外のCD/DVD/ブルーレイディスクは使用できません。

DVD-RAMのフォーマットについて

- フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されている情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

5 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインタフェースを使用するとき、Gigabit Ethernet（1000BASE-T）は、エンハンスドカテゴリ（CAT5E）以上のケーブルを使用してください。Fast Ethernet（100BASE-TX）は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルを使用してください。Ethernet（10BASE-T）は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

6 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録 **6-7** 使用できる国／地域について」を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

7 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって異なります。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
 - ・ ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサージョンとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
 - ・ 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
 - ・ ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
 - ・ 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
 - ・ 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
 - ・ 本書および『取扱説明書』で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
 - ・ 作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
 - ・ 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
 - ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
 - ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

□ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやMOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

□ USBの常時給電について


- 本機能は初期設定では無効になっておりますので、使用するには「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で本機能を有効にする必要があります。
- 本機能を「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で有効にした際、(⚡) アイコンが付いているUSBコネクタに接続しているUSB周辺機器が正しく動作しない場合があります。この場合、本機能を「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で無効に設定してください。
- 本機能を利用しての充電は、専用充電器で充電する場合と比較して、より多くの充電時間が必要になることがあります。
- 常時給電を有効にしている場合は、電源OFFの状態でもバッテリーが消費されます。バッテリー駆動時間や休止状態の保持時間が短くなるので、ACアダプターを接続して使用することをおすすめします。
- パソコン本体の電源ON/OFFと連動するUSBバスパワー（DC5V）連動機能を持つ外部機器は、常に動作状態になることがあります。
- 常時給電に対応したUSBコネクタに接続された外部機器の使用電流が過大の場合、安全性確保のためUSBバスパワー（DC5V）の供給を停止させることがあります。
- 「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」の設定で、本機能が有効に設定されていると、常時給電に対応したUSBコネクタでは「USB WakeUp 機能」*1 が機能しません。常時給電に対応したUSBコネクタで「USB WakeUp 機能」を使用する場合は、本機能を無効に設定してください。

*1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能はすべてのUSBコネクタで有効です。

□東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティについて

「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」は、USBの常時給電に対応しているUSBコネクタの設定を行うことができます。

● 起動方法

① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [USB スリープ アンド チャージ] をクリックする

● USBの常時給電の有効／無効

「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」は、常時給電の機能を有効／無効に設定できます。

eSATA対応機器の操作にあたって

- スリープまたは休止状態でパソコンのeSATA/USBコネクタにeSATA対応機器を接続しないでください。eSATA対応機器を認識できない場合があります。eSATA対応機器は、パソコンに電源が入った状態で接続してください。

i.LINK (IEEE 1394) 対応機器の操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときにほかのi.LINK対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないとき、またはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK対応機器を使用するには、システム (OS) が対応しており、周辺機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのi.LINK対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべてのi.LINK対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- 取り付ける機器によっては、スリープまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードとACアダプターの取り付け／取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スリープまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

□ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、i.LINK対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のi.LINK対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

■ ヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・ パソコン本体の電源を入れる／切るとき
 - ・ ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

■ 光デジタル対応機器の操作にあたって

- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行っておりません。
したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。
パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。
ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が48kHzに固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
 - ・ お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物の録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
 - ・ お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」または「WinDVD BD for TOSHIBA」で「コピー禁止」のDVD／ブルーレイディスクを再生した場合や、著作権保護機能（SCMSに準拠）を持つプレーヤーでCDや音楽ファイルを再生した場合、録音できない場合があります。
SCMS（シリアル・コピー・マネージメント・システム）とは、デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術です。例えば、音楽CDからMDに録音することはできますが、録音したMDからさらにほかのMDに録音することはできません。

ExpressCardの操作にあたって

- ホットインサージョンに対応していないExpressCardを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- ExpressCardには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。ExpressCardを取りはずす際に、ExpressCardが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからExpressCardを取りはずしてください。
- ExpressCardの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにExpressCardを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。
- ExpressCardを取りはずしたあとは、ダミーカードを挿入してください。ホコリやゴミなどがExpressCardスロットに入り、故障するおそれがあります。

テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビとの接続動作確認は行っていません。したがって、すべてのテレビへの表示は保証できません。
テレビによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、DVDなどを再生する前に、表示装置の切替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・ データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・ 通信を行っている間
- デュアルビュー（拡張）表示でテレビまたは外部ディスプレイをプライマリデバイスに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにログオン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- HDMI出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMIケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示またはサウンド出力が切り替わることがあります。
- 外部ディスプレイに表示したときに、デスクトップ画面の周りに黒い帯が表示され、デスクトップ画面が外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。
その場合は『外部ディスプレイに付属の取扱説明書』をご覧ください、外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定すると、適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

8 バッテリーについて

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人 電子情報技術産業協会の「バッテリー関連Q&A集」について
<http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm>

9 CD/DVD/BDにデータのバックアップをとる

CD/DVD/ブルーレイディスクに書き込む前に

CD/DVD/ブルーレイディスクに書き込みを行うときは、市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。

CD/DVD/ブルーレイディスクに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。

守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したCD/DVD/ブルーレイディスクの損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD/DVD/ブルーレイディスクに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD/DVD/ブルーレイディスクに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

参照 CD/DVD/ブルーレイディスクについて

「2章 6 CD/DVD/ブルーレイディスクを使う」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・スクリーンセーバー
 - ・ウイルスチェックソフト
 - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・音楽CD/DVD/ブルーレイディスクの再生アプリケーション
 - ・モデムなどの通信アプリケーション など
 ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SDメモ리카ード、SDHCメモ리카ード、USB接続などのハードディスクドライブなど、本製品の内蔵ハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-RAM、ブルーレイディスクにデータを書き込むことはできません。

1 ご使用にあたってのお願い

- 本製品に付属している「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-Video、DVD-VR、DVD-Audioを作成することはできません。
- 書き込み可能なDVDをバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能なDVDメディアでないとバックアップできない場合があります。詳細は「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプを参照してください。
- 著作権保護されているDVD-Videoを「TOSHIBA Disc Creator」を使用してバックアップを作成しても、作成されたメディアで映像を再生することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD-ROM、CD-R、CD-RWからDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+RからCD-R、CD-RWへバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、ほかのソフトウェアや、家庭用DVDビデオレコーダーで作成したDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのバックアップを作成できないことがあります。


書き込みを行うにあたって

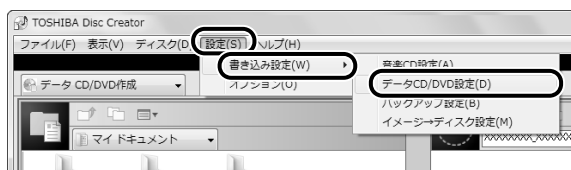
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」では、データが正常に書き込まれたことを確認（簡易チェック）するように設定されています。

次の手順で確認できます。

- ① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [CD&DVD アプリケーション] → [Disc Creator] をクリックする
「TOSHIBA Disc Creator」の [Startup Menu] 画面が表示されます。
- ② [データCD/DVD作成] をクリックする
- ③ メインウィンドウで [設定] をクリックし、[書き込み設定] → [データCD/DVD設定] をクリックする



[データCD/DVD設定] 画面が表示されます。

- ④ [データチェック] で [書き込み後にデータをチェックする] がチェックされているか確認する
[簡易チェック] と [詳細チェック] を選択することができます。




10 ブルーレイディスクの再生にあたって

- ブルーレイディスクを再生する前に、ほかのアプリケーションを終了させてください。また、再生中にはほかのアプリケーションを起動させたり、ほかの操作は行わないでください。正常な再生ができない場合や再生が停止する場合があります。
- 使用するブルーレイディスクのタイトルによっては、コマ落ち、音飛びおよび映像と音声の同期ずれが発生する場合があります。
- 本製品のブルーレイディスク再生機能は著作権保護技術AACS (Advanced Access Content System) に対応しています。ブルーレイディスクを継続的に楽しみいただくためには、本機に含まれているAACSキーの更新が必要となります。なお、更新の際にはインターネット接続が必要です。
- 購入から5年間は無料でAACSキーを更新いただけます。5年を超えての更新につきましては、本ソフトウェアプロバイダーであるコーレル株式会社の定める条件によります。
- AACSについてのより詳しい情報については、AACS LAのウェブサイト (<http://www.aacsla.com/jp/home>) をご覧ください。
- [WinDVD BD for TOSHIBA] で再生している映像を外部ディスプレイやテレビでご覧になるには、RGB入力端子や、HDCP対応のHDMI入力端子のあるディスプレイやテレビが必要です。
- ブルーレイディスク再生時は、必ずACアダプターを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。
- ブルーレイディスクの映像は、本体液晶ディスプレイまたはRGBコネクタ、HDMI出力端子に接続したテレビのみに表示できます。また、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイまたはテレビへの同時表示 (クローン表示、デュアルビュー (DualView) 表示) はできません。
- ブルーレイディスク再生機能はコンテンツ内蔵のプログラムに従って作動しますので、コンテンツによって、操作方法、操作時の画面、効果音、アイコンなどの機能・動作は、それぞれ異なる場合があります。これらの詳細は、『コンテンツに付属の説明書』を参照するか、発売メーカーに直接お問い合わせください。
- ブルーレイディスク再生ソフト [WinDVD BD for TOSHIBA] は、ブルーレイディスク再生専用です。DVDの再生はサポートしていません。
- BD-Jタイトルでは、[WinDVD BD for TOSHIBA] のショートカットキーが使用できません。

- BD-Jタイトルでは、レジューム再生機能が使用できません。
- ビデオ表示ウィンドウをWindows 7 Aero Snapの領域にドラッグすると、黒画面になります。
- 特定地域向けのタイトルを初めて再生する際に、リージョン設定をする必要があります。初回設定後は、4回まで変更することが可能です。

11 DVDの再生にあたって


本項では、「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-VideoフォーマットまたはDVD-VRフォーマットで記録されたディスクを示します。

- 使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- 家庭用DVDレコーダーで録画した、ファイナライズされていないDVDはパソコンで再生できない場合があります。
- DVDの再生には、「TOSHIBA DVD PLAYER」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「TOSHIBA DVD PLAYER」を起動し、DVDを再生してください。
- DVD再生ソフト「TOSHIBA DVD PLAYER」では、DVD-VideoとDVD-VRの再生ができます。Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
- DVD再生時は、ACアダプターの接続をおすすめします。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は電源プランで「高パフォーマンス」を選択してください。
- DVDを再生する前に、ほかのアプリケーションを終了させてください。また、再生中にはほかのアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」の起動中は、スリープ、休止状態を実行しないでください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」の起動中は、コンピューターのロック状態に移行する操作（ + **L** キーまたは **FN** + **F1** キーを押す）をしないでください。
- Regionコードは4回まで変更することができますが、通常は出荷時のままご利用ください。出荷時の状態では、Regionコードが「2」に設定されておりますので、Regionコードが「2」または「ALL」のDVD-Videoをご使用ください。
- 外部ディスプレイまたはテレビに表示するときは、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、クローン表示設定でDVDを再生することはできません。

参照 ▶ 表示装置の切替え「4章 8-[2] 表示を切り替える」

- 外部ディスプレイ側の解像度やリフレッシュレートが高い場合、DVD再生画像が正常に表示されないことがあります。その際はいったん再生を終了し、外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げてご使用ください。

その他の注意については、「TOSHIBA DVD PLAYER」のヘルプに記載しています。

「TOSHIBA DVD PLAYER」のヘルプの起動は、[スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA DVD PLAYER] → [TOSHIBA DVD PLAYER ヘルプ] をクリックしてください。

12 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押ししたりしないでください。画質が低下する原因となります。
レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてください。


13 顔照合機能について

- 「TOSHIBA Face Recognition」は本人の認証・照合を保証するものではありません。
登録者の髪型・帽子の有無・眼鏡の有無など登録時と顔に変化があると認識率が低下する可能性があります。
- 登録者に似ている顔を誤照合する場合があります。
- セキュリティを目的としたWindowsパスワードの置き換えには適しません。
セキュリティが重要な場合には、適切なWindowsパスワードをログインにお使いください。
- 周囲の明るさや光の方向の違いがあると、登録者であっても正しく照合できない場合があります。その場合はWindowsパスワードを使ってログインしてください。
登録者本人の照合に連続して失敗する場合には、追加学習を行うと照合しやすくなります。
- 顔照合に失敗した顔データをログ情報として記録していますので、パソコンを廃棄するときにはアプリケーションをアンインストールするか、「TOSHIBA Face Recognition」を起動しログを全件削除してください。
- 「TOSHIBA Face Recognition」の使用または使用不能から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して当社は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 当社は、以下に関して一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。
 - ・ 取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた不便または損害
 - ・ 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる不具合、またはその結果生じた不便または損害
 - ・ 顔情報や照合履歴など記憶内容の消失、あるいは漏えいなどにより生じるいかなる損害、クレームなど（「TOSHIBA Face Recognition」に登録された顔情報など記憶内容は、お客様の責任において管理願います。）
 - ・ 何らかの原因による登録・照合に関する不動作。
および、不動作に起因する損害。

14 レグザリンクについて

- レグザと本製品が正しく接続されているにも関わらず、レグザに付属のリモコンから本製品の操作ができない場合は、一度本製品を再起動し、HDMIケーブルをはずしてから、つなぎなおしてください。

レグザからパソコン本体の電源を操作するには

- レグザから操作して、本製品の電源を入れたり切ったりすることができます。
 - ① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HDMI連動設定] をクリックする
[HDMI連動設定] 画面が表示されます。
 - ② 機能を有効にする場合は、[HDMI連動を有効にする] と [HDMI連動対応のテレビから本機の電源のオン、オフをできるようにする] をチェックする
機能を使わない場合は、チェックをはずしてください。
 - ③ [OK] ボタンをクリックする

パスワードの入力について

- パスワードの入力を求められた場合には、レグザからパスワードを入力することはできません。

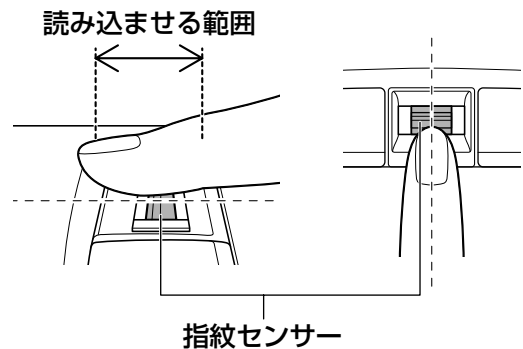
参照▶ Windows ログオンパスワードについて『Windows ヘルプとサポート』

15 指紋認証について

指紋認証の操作にあたって

指紋センサーは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサー表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取り扱いをすると故障したり、指紋が認証されない原因になります。
 - ・ 指紋センサー表面を爪などの硬いものでこすったりひっかいたりする
 - ・ 指紋センサー表面を強く押す
 - ・ 濡れた手で指紋センサー表面を触る
指紋センサーの表面に水蒸気などをあてず、乾燥した状態に保ってください。
 - ・ 化粧品や薬品、砂や泥などの付いた手で指紋センサー表面を触る
砂などの小さい物でも、指紋センサーを傷つける場合があります。
 - ・ 指紋センサー表面にシールなどをはる
 - ・ 指紋センサー表面に鉛筆やボールペンなどで書く
 - ・ 指紋センサー表面を静電気を帯びた手や布などで触る
- 指紋センサーをご使用になるときは、次の点にご注意ください。
 - ・ 手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取る
 - ・ 金属に手を触れるなどして、静電気を取り除く
特に空気が乾燥する冬場には注意してください。静電気は指紋センサーの故障原因になります。
 - ・ 眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でセンサーの汚れをふき取る
このとき、洗剤は使用しないでください。
 - ・ 指と指紋センサーが横から見て平行になるように指を置く
 - ・ 指紋センサーと指の中央を合わせる
 - ・ 指紋センサーの上に第1関節がくるように置く
 - ・ すべらせるときにはゆっくりと一定のはやさで手前にすべらせる
それでも認識されない場合は、はやさを調整してください。
 - ・ 右の図のように、指を上下や左右にぶれさせず、指紋センサーが完全に見える状態になるまで手前にすべらせてください。



- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次のような状態の指は避けてください。
 - ・ 濡れている
 - ・ けがをしている
 - ・ ふやけている
 - ・ 荒れている
 - ・ 汚れている指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録してください。
- ・ 乾燥性の皮膚炎などにかかっている
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
 - ・ 指紋センサーの表面が汚れていないか確認する
汚れている場合は、眼鏡ふき（クリーンクロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使ってください。指紋センサー表面は強くこすらないでください。故障するおそれがあります。
 - ・ 指の状態を確認する
傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態、指紋が磨耗した状態、極端に太った場合など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、ほかの指での再登録をおすすめします。
 - ・ 指の置きかたに注意する
- その他
 - ・ 2本以上の指を登録することをおすすめします。うまく認識しにくい場合などは、登録しなおすか、ほかの指を登録してください。
 - ・ 指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
 - ・ 指紋認証機能は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

Windowsログオンパスワードの設定について

- パスワードがわからなくなった場合、パソコンの管理者アカウントで設定したユーザーアカウントがほかにあれば、そのアカウントでログオンしてパスワードの再登録ができます。管理者アカウントで設定したほかのユーザーアカウントがない場合は、リカバリーをしてください。リカバリーをすると、購入したあとに作成したデータなどは、すべて消失します。

参照 Windowsログオンパスワードについて『Windowsヘルプとサポート』

指紋認証のパスワード入力について

- 指紋認証に関連するシステム環境や設定が変更された場合、起動時にユーザーパスワードやHDDパスワードの入力を求められることがあります。その場合は、キーボードから各パスワードを入力してください。

メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 使えるCDを確認しよう

CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカー

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、『dynabook ****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』でメディアの使用推奨メーカーを確認してください。
- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法『Windowsヘルプとサポート』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

2 使えるDVDを確認しよう

DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

*1 一部の家庭用DVDビデオレコーダーでは再生できない場合があります。

*2 2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、『dynabook ****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』でメディアの使用推奨メーカーを確認してください。
- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。
このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法『Windowsヘルプとサポート』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれのメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

3 使えるブルーレイディスクを確認しよう

■BD-REの種類

BD-REにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるBD-REは次のとおりです。

カートリッジタイプの記録メディアは、使用できません。

○：使用できる ×：使用できない

BD-REの種類	本製品の対応
カートリッジなし	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×

ブルーレイディスクについて／ブルーレイディスクの使用推奨メーカー

- BD-RE、BD-Rに書き込む際には、『dynabook * * * *（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』でメディアの使用推奨メーカーを確認してください。
- BD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- BD-REメディアは書き換え可能なメディアですが、「DVD MovieWriter」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずBD-REメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- BD-REの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- BD-RE、BD-Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、記録メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 ▶ エラーチェックの方法『Windowsヘルプとサポート』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。

メモ

- 作成したブルーレイディスクは、一部の家庭用ブルーレイディスクプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。

4 メディアカードを使う前に

1 メディアカードの操作にあたって

- ブリッジメディアのLEDが点灯中は、電源を切ったり、メディアを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアが壊れるおそれがあります。
- メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアが壊れるおそれがあります。

2 SDメモリカード／SDHCメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取り出すときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカード／SDHCメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのカードの動作保証はできません。
- SDメモリカード／SDHCメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカード／SDHCメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

SDメモ리카ード／SDHCメモ리카ードのフォーマットについて

- Windows上（[コンピューター] 画面）でSDメモ리카ード／SDHCメモ리카ードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモ리카ード／SDHCメモ리카ードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモ리카ード／SDHCメモ리카ードを再フォーマットする場合は注意してください。
- 「東芝SDメモ리카ードフォーマット」でフォーマットするときは、「東芝SDメモ리카ードフォーマット」以外の、SDメモ리카ード／SDHCメモ리카ードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

3 メモリースティックを使う前に

- ブリッジメディアスロットにメモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオをセットするときは、必ずメモリースティック デュオ アダプターを装着した状態で行ってください。
- ブリッジメディアスロットからメモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオを取りはずすときは、必ずメモリースティック デュオ アダプターに装着したままの状態で行ってください。
- 本製品は、著作権保護技術MagicGateには対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

4 xD-ピクチャーカードを使う前に

- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

5 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

5 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（フロッピーディスク、半導体メモリ、CD、DVD、ブルーレイディスクなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。

初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合がありますので、十分ご確認ください。

データ消去のための専用ソフトや、メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3

お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。

お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザーID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。

サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。

https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

登録方法

お客様の環境に応じて、登録方法を選択できます。

■方法1 - [東芝お客様登録] アイコンからのご登録方法

インターネットに接続後、登録用のホームページに簡単にアクセスできます。

■方法2 - インターネットからのご登録方法

インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。

登録用ホームページ： <http://room1048.jp>

参照 ▶ インターネット接続「3章 **1** ネットワークで広がる世界」

商品の追加登録は「方法1」または「方法2」で行います。

ここでは、「方法1」を紹介します。

1 [東芝お客様登録] アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、[東芝お客様登録] アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続しているあいだの通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。
 - 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、操作の途中で、検索ツールの利用を確認する画面が表示される場合があります。画面に従って操作してください。
-

1 デスクトップ上の [東芝お客様登録] アイコン () をダブルクリックする

[[お客様登録] のお願い] 画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

4

技術基準適合について

■ 瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

■ 高調波対策について

本装置は、「JIS C 61000-3-2 適合品」です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

■ 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

参照▶ 「7章 **2**-**5**-Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

■ FCC information

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB port, Universal Serial Bus (USB2.0) ports, eSATA/USB combo port, i.LINK (IEEE1394) port, HDMI out port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

■ EU Conformity Statementについて

付
録



This product and - if applicable - the supplied accessories too are marked with "CE" and comply therefore with the applicable harmonized European standards listed under the Low Voltage Directive 2006/95/EC, the EMC Directive 2004/108/EC and/or R&TTE Directive 1999/5/EC.

Responsible for CE-marking:

TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany

Manufacturer:

Toshiba Corporation, 1-1 Shibaura 1-chome, Minato-ku, Tokyo, 105-8001, Japan

The complete official EU CE Declaration can be obtained on following internet page:

<http://epps.toshiba-teg.com/>

Panasonic ブルーレイディスクドライブUJ240
(ブルーレイディスクドライブ (DVDスーパーマルチ機能搭載))
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
 また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

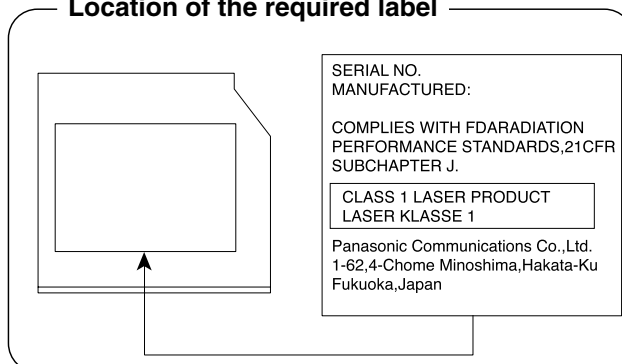
⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
 本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
 本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格
 EN60825-1で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
 レーザー光を直接被爆することを防ぐために、
 この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



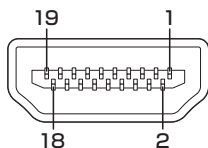
5

各インターフェースの仕様

1 HDMI出力端子

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TMDS Data2+	TMDSデータ (2+)	0
2	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ (2) シールド	
3	TMDS Data2-	TMDSデータ (2-)	0
4	TMDS Data1+	TMDSデータ (1+)	0
5	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ (1) シールド	
6	TMDS Data1-	TMDSデータ (1-)	0
7	TMDS Data0+	TMDSデータ (0+)	0
8	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ (0) シールド	
9	TMDS Data0-	TMDSデータ (0-)	0
10	TMDS Clock+	TMDSクロック (+)	0
11	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
12	TMDS Clock-	TMDSクロック (-)	0
13	Reserved	予約	
14	Reserved	予約	
15	SCL	SCLデータクロック信号	0
16	SDA	SDA通信信号	I/O
17	DDC/CEC Ground	DDC/CEC信号グランド	
18	+5V Power	電源	
19	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	1

コネクタ図

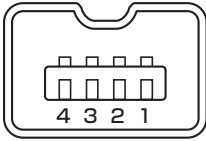


信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (1) : パソコン本体への入力

信号方向 (0) : パソコン本体からの出力

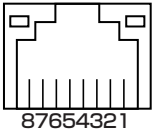
2 i.LINK (IEEE1394) インターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	I/O
2	TPB+	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	I/O
3	TPA-	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	I/O
4	TPA+	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	I/O
コネクタ図			
			

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

3 LANインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA (+)	I/O
2	BI_DA-	送受信データA (-)	I/O
3	BI_DB+	送受信データB (+)	I/O
4	BI_DC+	送受信データC (+)	I/O
5	BI_DC-	送受信データC (-)	I/O
6	BI_DB-	送受信データB (-)	I/O
7	BI_DD+	送受信データD (+)	I/O
8	BI_DD-	送受信データD (-)	I/O
コネクタ図			
			

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

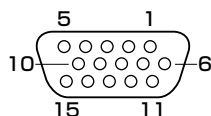
信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

4 RGBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	0
14	-CVSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図



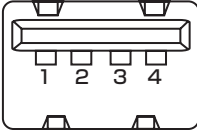
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

5 USBインターフェース

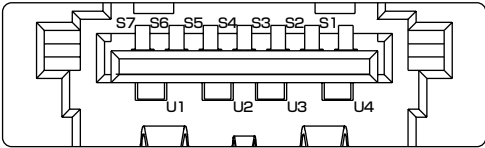
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VBUS	+5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			
			

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

6 eSATA/USBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
S1	GND	グランド	
S2	A+	eSATAプラスデータ	O
S3	A-	eSATAマイナスデータ	O
S4	GND	グランド	
S5	B-	eSATAマイナスデータ	I
S6	B+	eSATAプラスデータ	I
S7	GND	グランド	
U1	VBUS	+5V	
U2	D-	USBマイナスデータ	I/O
U3	D+	USBプラスデータ	I/O
U4	GND	信号グランド	
コネクタ図			
			

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n draft2.0のすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 周波数チャンネル選択
- マルチチャンネル間のローミング
- パワーマネージメント

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類については、「3章 **1** - **3** - **1** 無線LANモジュールの確認」をご覧ください。

メモ

- 本製品に内蔵されているIEEE802.11nに準拠した無線LANモジュールは、リリースバージョンdraft2.0の仕様に基づいております。そのため、正式規格対応製品や他社のドラフト版対応製品とは互換性やすべての機能を保証するものではありません。
- 本製品と同等の構成を持った機器との通信を行う場合に、IEEE802.11n draft2.0準拠の通信を行うことが可能です。

2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHz帯および2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線周波数帯	IEEE802.11a, IEEE802.11n draft2.0	5GHz (5150-5725MHz)
	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n draft2.0	2.4GHz (2400-2497MHz)
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
	IEEE802.11n draft2.0	直交周波数分割多重方式 (OFDM方式), 空間多重方式 (MIMO方式)

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz帯のチャンネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。

■ 無線IEEE802.11 チャンネルセット

- 5GHz帯：5150～5725MHz（IEEE802.11a、IEEE802.11n draft2.0の場合）



メモ

- 5GHz無線LANは屋外では使用できません。

	チャンネルID	周波数
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャンネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャンネルに自動的に設定されます。

- 2.4GHz帯：2400～2497MHz (IEEE802.11b/g、IEEE802.11n draft2.0の場合)

チャンネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 ^{*1}
11	2462
12	2467
13	2472

*1 購入時に、アドホックモード接続時に使用するチャンネルとして設定されているチャンネルです。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

5GHz帯無線LANを屋外で使用することはできません。

■ステッカー

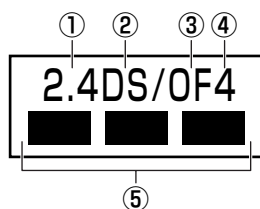
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

■現品表示

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。



- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
- ③ OF : 変調方式がOFDM方式であることを示す。
- ④ 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
- ⑤ ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『取扱説明書』の巻末を参照してください。

5 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

■ Realtek b/g/nモジュールの場合

無線設備名 : RTL8191SE

TELEFICATION B.V.

認証番号 : D095001201

■ Intel a/b/g/n モジュールの場合

無線設備名 : 512AN_MMW

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号 : D080241003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

6 お知らせ

無線製品の相互運用性

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) / Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs（Revision a/b/g/n draft2.0）（無線LAN標準規格（版数 a/b/g/n draft2.0））
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証
Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

健康への影響

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

本製品に内蔵されている無線LANモジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に内蔵されている無線LANモジュールのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の取扱説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this the Wireless LAN, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user's manual for the details regarding antenna location.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/99ehd-dhm237/index-eng.php/

● Europe

Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT. Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT. Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow. Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France. Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed. E' necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow. Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the Wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

●Taiwan

Article 12

Without permission granted by the DGT or NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to an approved low power radio-frequency devices.

Article 14

The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications;

If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

7 使用できる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

■ Realtek b/g/n モジュール

アイスランド	オマーン	スイス	バーレーン	香港
アイルランド	オランダ	スウェーデン	パキスタン	マセドニア
アゼルバイジャン	ガーナ	スペイン	パナマ	マルタ
アメリカ合衆国	カザフスタン	スリランカ	パプアニューギニア	マレーシア
アラブ首長国連邦	カタール	スロバキア	パラグアイ	南アフリカ
アルゼンチン	カナダ	スロベニア	ハンガリー	メキシコ
アルバニア	韓国	セルビア	フィリピン	モザンビーク
イギリス	カンボジア	タイ	フィンランド	モナコ
イタリア	キプロス	台湾	プエルトリコ	ヨルダン
インド	ギリシャ	チェコ	フランス	ラトビア
インドネシア	キルギスタン	中国	ブルガリア	リトアニア
ウクライナ	クロアチア	チリ	ベトナム	リヒテンシュタイン
ウルグアイ	クウェート	デンマーク	ベネズエラ	ルーマニア
エクアドル	ケニア	ドイツ	ペルー	ルクセンブルク
エジプト	コスタリカ	ドミニカ	ベルギー	レバノン
エストニア	コロンビア	トルコ	ポーランド	ロシア
エルサルバドル	サウジアラビア	日本	ボスニア・ヘルツェゴビナ	
オーストラリア	シンガポール	ニュージーランド	ボリビア	
オーストリア	ジンバブエ	ノルウェー	ポルトガル	

(2009年8月現在)

- 802.11n モードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

■ Intel a/b/g/n モジュール

アイスランド	カナダ	スウェーデン	パナマ	ホンジュラス
アイルランド	韓国	スペイン	バミューダ	マラウイ
アメリカ合衆国	カンボジア	スロバキア	パラグアイ	マルタ
アラブ首長国連邦	キプロス	スロベニア	ハンガリー	マレーシア
イギリス	ギリシャ	タイ	フィリピン	南アフリカ
イタリア	キルギスタン	台湾	フィンランド	モナコ
インド	クロアチア	チェコ	プエルトリコ	モロッコ
インドネシア	グアテマラ	中国	ブラジル	モンテネグロ
ウルグアイ	クウェート	チリ	フランス	ヨルダン
エジプト	ケニア	デンマーク	ブルガリア	ラトビア
エストニア	コスタリカ	ドイツ	ベトナム	リトアニア
エルサルバドル	コロンビア	トルコ	ベルギー	リヒテンシュタイン
オーストラリア	サウジアラビア	日本	ポーランド	ルーマニア
オーストリア	ジャマイカ	ニューカレドニア	ボスニア・ヘルツェゴビナ	ルクセンブルク
オマーン	シンガポール	ニュージーランド	ボリビア	レバノン
オランダ	ジンバブエ	ノルウェー	ポルトガル	
カタール	スイス	バーレーン	香港	

(2009年8月現在)


- 802.11aおよび802.11n モードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信でのピアツーピア接続は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13, Ch36, Ch40, Ch44, Ch48, Ch52, Ch56, Ch60, Ch64, Ch100, Ch104, Ch108, Ch112, Ch116, Ch120, Ch124, Ch128, Ch132, Ch136, Ch140で使用できます。

8 「東芝無線LAN5GHz有効無効ツール」について

* Intel a/b/g/nモジュール搭載モデルのみ

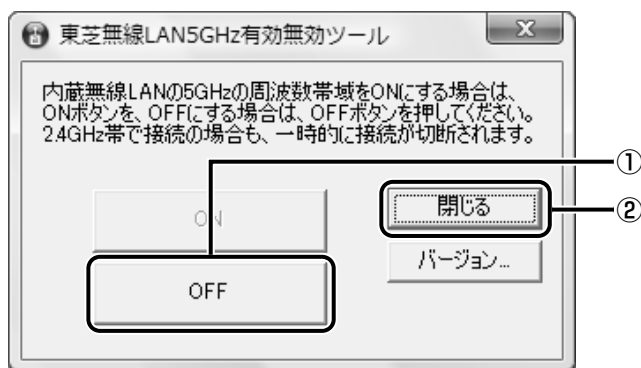
5GHz帯無線LANを屋外で使用することはできません。

本製品を屋外に持ち出す場合には、「東芝無線LAN5GHz有効無効ツール」で5GHzの周波数帯域をOFFにしてください。

1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [無線LAN5GHz有効無効ツール] をクリックする

[東芝無線LAN5GHz有効無効ツール] 画面が表示されます。

2 [OFF] ボタンをクリックし①、[閉じる] ボタンをクリックする②



5GHzの周波数帯域がOFFになります。

 メモ

- 屋内で5GHzの周波数帯域を使用する場合は、手順 **2** で [ON] ボタンをクリックし、5GHzの周波数帯域をONにしてください。

7

ホームネットワークを楽しもう

「CyberLink SoftDMA for TOSHIBA」(SoftDMA)を使うと、家庭内のネットワークに接続しているHDD&DVDレコーダーや本製品以外のパソコンなどから、それぞれ録画・保存している映像・音楽・画像などのコンテンツを受信して、本製品で楽しむことができます。



メモ ホームネットワークについて

- 「ホームネットワーク」とは、ルーターなどを使い、家庭内でLAN (Local Area Network) 機能のある機器を接続したネットワークのことです。
ホームネットワークにパソコンやHDD&DVDレコーダー、テレビを接続すると、接続した機器に保存されている映像・画像・音楽コンテンツを楽しむことができます。

1 対応する外部機器を準備する

「SoftDMA」で外部機器のコンテンツを視聴するためには、次の機器でホームネットワークの環境を構築することをおすすめします。

- **HDD&DVDレコーダー**
録画した番組などの映像を楽しむことができます。
- **パソコン**
本製品ではネットワークに接続している、ほかのパソコンのビデオ・音楽・画像ファイルを視聴できます。

対応する外部機器について

「SoftDMA」に対応する外部機器については、次の説明を確認してください。

- 外部機器がDLNAに対応している場合のみ、「SoftDMA」はその外部機器のコンテンツを視聴することができます。
- 外部機器がDTCP-IPに対応している場合のみ、「SoftDMA」はその外部機器で録画したデジタル放送のコンテンツを視聴することができます。
2008年12月現在、東芝製HDD&DVDレコーダー RD-X8、RD-X7、RD-S503、RD-S303、RD-S502、RD-S302、RD-A600、RD-A301、RD-A300が対応しています。
- パソコンに、DLNAの「Digital Media Server (DMS)」に対応しているアプリケーションがインストールされている場合のみ、「SoftDMA」はそのパソコンで保存しているファイルを視聴することができます。「Windows Media Player」などが対応しています。

□ DLNAについて

- DLNA (Digital Living Network Alliance) は、ホームネットワークを使用して、パソコンやオーディオ&ビジュアル機器などをつなぎ、コンテンツを相互利用するための仕様を決める業界団体のことです。

DLNAは、蓄積したファイルを別の機器に伝送する「Digital Media Server (DMS)」と、DMSが提供するファイルを選択して再生する「Digital Media Player (DMP)」の仕様を決めています。

「SoftDMA」は、パソコン上で動作するDMPであり、DMSに保存されているコンテンツを、ホームネットワークを経由して視聴できます。

- コンテンツによっては、「SoftDMA」とDLNA CERTIFIED™製品の互換性がない可能性があります。
- コンテンツの種類やコンテンツが保存されているDMSの性能などによって、「SoftDMA」でコンテンツの早送りや巻戻し、スキップなどの操作ができないことがあります。

□ DTCP-IPについて

DTCP-IPとは、デジタル放送など、著作権が保護されているコンテンツを、ホームネットワークを使って伝送するための技術規格です。

コンテンツを送信する機器と受信する機器、両方DTCP-IPに対応している必要があります。

「SoftDMA」はDTCP-IPに対応しています。

2 ネットワーク環境を準備する

● ネットワーク用の中継機器

ネットワーク用の中継機器は、複数の機器でネットワークを構築するとき、通信を中継するための装置です。

「SoftDMA」は次の機器に対応しています。

- ・ 有線LANルーターなど : Fast Ethernet (100BASE-TX) 以上
- ・ ルーター機能付き無線LANアクセスポイントなど
: IEEE802.11n、IEEE802.11gまたはIEEE802.11aに対応

ホームネットワークとインターネット接続について

パソコンなどの機器は、ADSLモデムなどのインターネットに接続するための機器と接続することで、インターネットに接続することができますが、ルーターをインターネットに接続するための機器に接続すると、パソコンだけではなく、ホームネットワーク上のすべての機器でインターネットに接続できます。

ルーターの中には、ブロードバンドルーターなどインターネットに接続するための機器が内蔵されているものもあります。

インターネットの接続については、プロバイダーに確認してください。



- ルーターと外部機器の接続・設定方法については、それぞれの取扱説明書を確認してください。
- 無線LANを使ってデータの送受信を行う場合、電波状況によってはデータがうまく再生されない場合があります。特に、デジタル放送のコンテンツを再生するとき、ネットワークの速度によっては、映像が乱れたり、再生できないことがあります。
有線LANを使用する場合でも、ネットワーク上のトラフィックが混雑している状態で使用すると同様の現象が発生します。
- 本製品が無線LANでネットワークに接続している場合、録画したデジタル放送の番組など著作権保護されたコンテンツを再生するときは、WEP、WPA、WPA2などのセキュリティ機能を設定している必要があります。
- 「SoftDMA」の一部の機能は、インターネットの接続が必要です。
本製品のLANコネクタは1つしかないため、インターネットに接続するための機器と外部機器を同時にホームネットワークで接続する場合は、ルーターが必要です。

3 ホームネットワークを設定する

ネットワークの接続と設定

□ ネットワークの接続

ルーターを使って、それぞれの機器をネットワークに接続します。ルーターや機器の種類によって、接続方法が異なります。

本製品とネットワークの接続方法については、「3章 **1** ネットワークで広がる世界」を確認してください。

ルーターと外部機器の接続方法については、それぞれの取扱説明書を確認してください。

□ ネットワークに接続した機器の設定

ルーターに機器を接続したあと、データの送受信ができるように、各機器はネットワークの設定を行う必要があります。

本製品の場合、ネットワークの設定方法は、「3章 **1** ネットワークで広がる世界」を確認してください。

外部機器のネットワークの設定方法については、それぞれの取扱説明書を確認してください。

ホームネットワークを使用するためには

続いて、本製品が外部機器からコンテンツを受信できるように、「ファイアウォール」の設定を行います。

「ファイアウォール」の設定を行ったあと、外部機器のコンテンツの公開を設定します。

□ファイアウォールの設定

本製品は「ウイルスバスター」がインストールされています。

「ウイルスバスター」の「パーソナルファイアウォール」機能によって、外部からの侵入を防いでいますが、外部機器からの送信データも防いでしまう場合があります。

外部機器からの送信データを受信できるよう、「パーソナルファイアウォール」を設定してください。

ご購入時の状態では、あらかじめ「パーソナルファイアウォール」が設定されています。次の手順で現在の状態を確認し、設定が変更されている場合は、設定し直してください。

- ①「ウイルスバスター」を起動後、[パーソナルファイアウォール] タブにある [パーソナルファイアウォール] が [有効] であることを確認する
- ② [現在のプロファイル] が [家庭内ネットワーク2] であることを確認する

ご購入時の状態では、[有効]、[家庭内ネットワーク2] に設定されています。

[有効]、[家庭内ネットワーク2] に設定されていない場合は、設定し直してください。

参照 「ウイルスバスター」のお問い合わせ先『取扱説明書』

メモ

- 「Windowsファイアウォール」または「ウイルスバスター」以外のウイルスチェックソフトやファイアウォールソフトを使用される場合は、「ウイルスバスター」と同様に「SoftDMA」が通信できるよう設定する必要があります。
ファイアウォールの設定方法は、ウイルスチェックソフトまたはファイアウォールソフトの取扱説明書またはヘルプで確認してください。
- ホームネットワークに接続しているパソコンもデータを送信するために「ファイアウォール」の設定が必要な場合があります。
詳しくは、ネットワークに接続しているパソコンの取扱説明書を確認してください。

□コンテンツの公開

外部機器は、ネットワークに接続している、ほかの機器にコンテンツを送信する場合、設定が必要になります。

HDD&DVDレコーダーの場合、録画したコンテンツを公開する設定を設定画面で行ってください。

パソコンの場合、インストールされているアプリケーションごとにファイルを公開する設定を行ってください。

どちらの場合も、設定する前に「SoftDMA」を起動して、外部機器が本製品の「SoftDMA」にコンテンツの公開を設定できるようにしてください。

外部機器によるコンテンツの公開の設定方法は、外部機器の取扱説明書または外部機器にインストールされているアプリケーションのヘルプを確認してください。

4 「SoftDMA」の操作方法

「SoftDMA」は、HDD&DVDレコーダーに録画された番組やパソコンに保存されているファイルを視聴することができるアプリケーションです。

「SoftDMA」では、外部機器とその中のコンテンツの選択、コンテンツの再生などのコントロールを行うことができます。

1 Windowsのデスクトップ上にある「CyberLink SoftDMA」アイコンをダブルクリックする

起動したあと、コンテンツをネットワークに公開している外部機器を検索する画面が表示されます。

検索後、外部機器を選択する画面が表示されます。表示されない場合は、「更新」ボタンをクリックしてください。

2 コンテンツを視聴したい外部機器をクリックする

「SoftDMA」をはじめて起動するときなど、外部機器が「SoftDMA」にコンテンツの公開を行っていない場合は、「サーバー認証が必要です。」画面が表示されることがあります。

「SoftDMA」を起動した状態で、外部機器のコンテンツの公開を設定してください。

3 視聴したいコンテンツの項目をクリックする

外部機器によって、選択できる項目は異なります。

4 視聴したいコンテンツをクリックする

コンテンツの種類によって、操作が異なります。

詳しくは、「SoftDMA」のヘルプを確認してください。

□ 著作権保護されたコンテンツの視聴について

「SoftDMA」はDTCP-IPに対応しているため、DTCP-IPに対応したHDD&DVDレコーダーなどで録画されたデジタル放送の番組など著作権保護されたコンテンツを視聴することができます。

□ 表示装置・音声について

- 「SoftDMA」で再生している映像を外部ディスプレイやテレビでご覧になるには、HDCP対応のHDMI入力端子のあるディスプレイやテレビが必要です。
- 48kHz/16bit以上の形式で収録された音声データは48kHz/16bitに変換されます。
- 「SoftDMA」の映像は、本体液晶ディスプレイまたはHDMI出力端子に接続したテレビや外部ディスプレイのみに表示できます。RGBコネクタに接続した外部ディスプレイには、表示させることはできません。また、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイまたはテレビへの同時表示（クローン表示、デュアルビュー（拡張）表示）はできません。
- 外部ディスプレイまたはテレビに表示する場合は、HDMI端子ケーブルを使用してHDMI出力端子に機器を接続し、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。再生中の表示装置の切替えはできません。



- 「SoftDMA」は、外部機器に保存されているデジタル放送のコンテンツの視聴に対応しています。コンテンツの種類や、コンテンツが保存されている外部機器の性能などによって、早送りや巻戻しなどの操作ができないことがあります。
- 本製品の「SoftDMA」で、初めてホームネットワークを経由して、HDD&DVDレコーダーなどで録画したデジタル放送の番組を視聴する場合は、ライセンスの取得のため、インターネットの接続が必要です。2回目以降は不要です。
- 接続する外部機器によっては、コンテンツのタイトルで特殊文字を用いられている場合など、名前の一部が正しく表示されない場合があります。
- 再生するタイトルによっては、コマ落ち、音飛びおよび映像と音声の同期ずれが発生する場合があります。
- 「SoftDMA」での再生時は、必ずACアダプターを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。
- 「SoftDMA」で再生をする前に、ほかのアプリケーションを終了させてください。また、再生中にはほかのアプリケーションを起動させたり、ほかの操作は行わないでください。スムーズな再生ができない場合や再生が停止する場合があります。
- 「SoftDMA」は「電源オプション」の電源プランを「高パフォーマンス」に設定してご使用ください。
- 「SoftDMA」で映像の再生中は、スクリーンセーバーは起動しません。また、自動的に休止状態、スリープやシャットダウンの状態には移行しません。手動での休止状態やスリープは実行できます。
- 「SoftDMA」起動中にWindowsユーザーの切替えを行わないでください。
- 「SoftDMA」で映像を再生しているときに、フルスクリーンに切り替わる操作を行うと再生を停止します。
- 「SoftDMA」起動中に解像度の変更を行わないでください。
- コンテンツの種類やコンテンツが保存されているDMS（デジタル・メディア・サーバー）の性能などによって、「SoftDMA」でコンテンツの早送りや巻戻し、スキップなどの操作ができないことがあります。
- 「SoftDMA」のインストール・アンインストールをする場合は、コンピューター管理者のユーザーで行ってください。

参照▶ 「SoftDMA」のお問い合わせ先『取扱説明書』

本製品では、64ビット版と32ビット版の2つのWindowsを選択してご利用いただけます。

ここでは、64ビット版と32ビット版の2つのOSの特長や、OSを切り替える際の手順や注意事項を記載しています。

OSを切り替える際には、必ずお読みください。

なお、付属の各マニュアル／オンラインマニュアルは、「32ビット版」を使用した場合の記載になっているため、64ビット版をご利用の際は本節をあわせてお読みください。

ご使用にあたって

□ お願い事項

64ビット版／32ビット版それぞれをご使用にあたって、知っておいていただきたいことがあります。次のお願い事項を、必ずお読みください。

- 64ビット版のパフォーマンスを発揮するには、64ビット版に対応したアプリケーションとドライバー類が必要です。
- 64ビット版を使用する場合、64ビットに対応していないドライバーや周辺機器は動作しません。
- 64ビット版を使用する場合、32ビット版用のアプリケーションは動作しないものがあります。
- 64ビット版を使用する場合、16ビット版用のアプリケーションは動作しません。

□ リカバリーメディアの作成について

「TOSHIBA Recovery Media Creator」では、64ビット版／32ビット版の両方に対応したリカバリーメディアを作成します。

64ビット版／32ビット版のどちらのWindows上でも、作成されるリカバリーメディアは同じです。

リカバリーメディアからリカバリーを行う場合も、64ビット版／32ビット版の選択を行ってください。

リカバリーメディアの作成については、『セットアップガイド 1章 6 リカバリーメディアを作る』を確認してください。

1 64ビット版を使用する場合

64ビット版の特長について

64ビット版には、次のような特長があります。

- 64ビット版対応のアプリケーションを使用した場合に、パフォーマンスが高くなる場合があります。
ただし、一部の32ビットアプリケーションは、正常に動作しない場合があります。
- 最大4GBのメモリ領域を使用できます。
本製品では、2つのスロットを合わせて最大4GBまでのメモリを取り付けることができます。
64ビット版の場合、4GBすべての領域をWindows上から使用することができます。

64ビット版を使用する場合の注意事項

本製品を64ビット版で使用する場合、操作や仕様などが付属の各マニュアル／オンラインマニュアルに記載された内容と一部異なります。

ここでは、操作や仕様が異なる部分の説明をします。

システムやお使いのモデルのソフトウェア環境によっては、このほかにも付属の各マニュアル／オンラインマニュアルに記載された内容とは、一部動作が異なる場合があります。

□ アプリケーションについて

付属の各マニュアル／オンラインマニュアルに記載されている次のアプリケーションは、Windowsが32ビット版の場合にのみ使用できます。

- RED STONE

□ 「Internet Explorer」について

64ビット版には、64ビット版の「Internet Explorer」と32ビット版の「Internet Explorer」の2つがインストールされています。

インターネットのサイトの中には、「Internet Explorer」の64ビット版では正常に表示されないものがあります。

この場合は、「Internet Explorer」の32ビット版をご利用ください。

2 32ビット版を使用する場合

32ビット版を使用する場合の注意事項

32ビット版で使用した場合、OSが使用可能なメモリ領域は最大3GBになります。

3 OSを切り替える場合の操作と注意事項

OSを切替えるには、リカバリー（再セットアップ）が必要です。

OSを切替えると

プレインストールアプリケーションの構成が一部変更になります。

詳細については、「本節 1]-64ビット版を使用する場合の注意事項」をご確認ください。

また、『dynabook ****（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』の「アプリケーション」もあわせてご確認ください。

バックアップをとったデータが一部使用できない場合があります。

控えておいた設定が一部使用できない場合があります。

リカバリーをする前に

リカバリーをするとハードディスク内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsログオンパスワードなど）もご購入時の状態に戻ります。

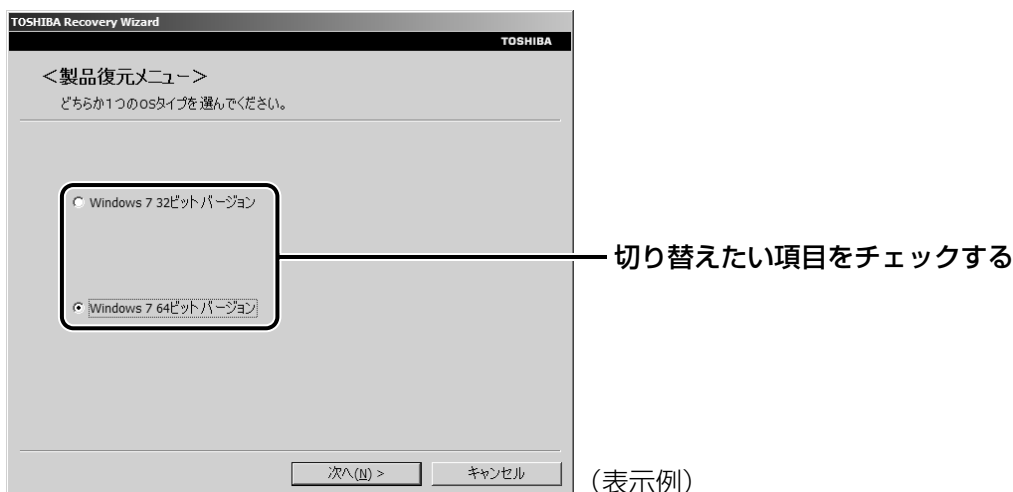
リカバリーをする前に、記録メディア（CDやUSBフラッシュメモリなど）にバックアップをとってください。また、リカバリー後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

リカバリー方法

リカバリー方法は、『セットアップガイド 3章 3 リカバリー=再セットアップをする』を確認してください。

本製品の場合、操作の途中で [製品復元メニュー] 画面が表示され、64ビット版または32ビット版へのリカバリーを選択できます。

32ビット版に変更する場合には [Windows 7 32ビットバージョン] を、64ビット版に変更する場合には [Windows 7 64ビットバージョン] をチェックして、[次へ] ボタンをクリックしてください。



□ リカバリーメニューについて

リカバリーツールでは、次のメニューのなかからリカバリー方法を選択することができます。

- ご購入時の状態に復元
- パーティションサイズを変更せずに復元（推奨）
- パーティションサイズを指定して復元

それぞれのメニューを選択した場合の意味と動作については、『セットアップガイド 3章 3 リカバリー=再セットアップをする』を確認してください。

リカバリーを行ったら

リカバリーを行ったら、以下の作業を行ってください。

□ Office製品のインストール

Office搭載モデルの場合、リカバリー後に、Microsoft® Office Personal 2007およびMicrosoft® Office PowerPoint® 2007をインストールする必要があります。


また、Microsoft® Office Personal 2007のService Pack 2もインストールしてください。Office製品およびService Pack 2のインストール方法については、『セットアップガイド 3章 4-③ Office製品を再インストールする』を確認してください。


インストール後、ライセンス認証が必要になります。


詳細は、付属のOffice製品のパッケージに入っている『スタート ガイド』を確認してください。

4 Windowsの確認方法

Windowsセットアップ終了後は、次の手順で、現在使用しているWindowsの種類を確認できます。

1 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

2 [ システムとセキュリティ] をクリックする

3 [ システム] をクリックする

4 表示された画面で、[システムの種類] を確認する



(表示例)